

あら〇〇君
こんにちは

あ、まき子さん
はい

最近バイトで
忙しいの？

お母さんに
聞いたわよ

あんまり無理
しないようにね

この人はまき絵さん。
近所に住んでいて昔からよく知っている女の人だ

やさしくて
すごく綺麗な人で
正確な年齢は
分からないが
昔からちつとも
変わらない
気がする。

あら本当？

ええ
そいふ...

おこ

母さんとも
仲が良くて
子供のころは
家によく遊びに
行っていた。



よかったら今度家に遊びに来て？

とか言っ
ておばさ
んが話
し相手
が欲
しだけ
なん
だけ
どね

はい！

うん

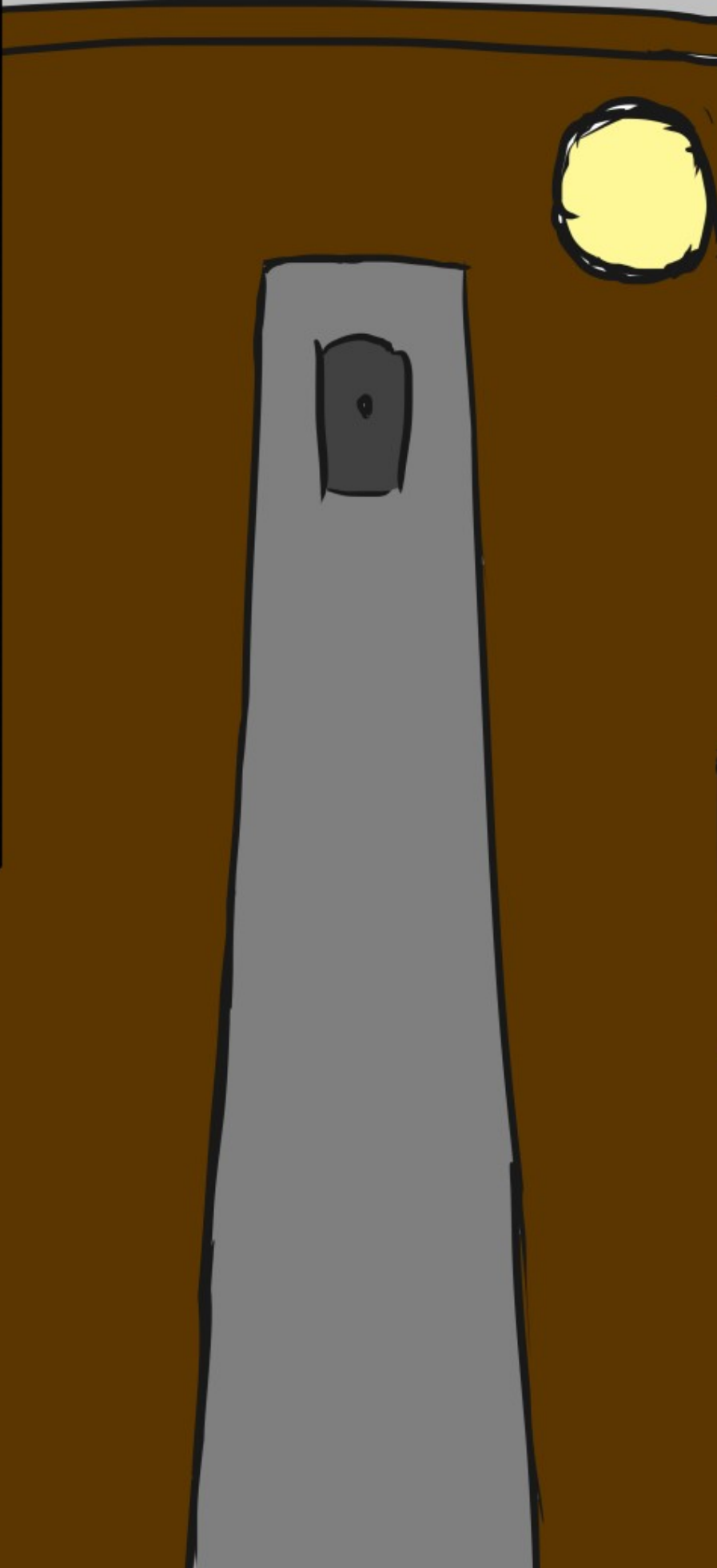
色々悩み事とか
あるんじゃない？
お母さんに言い
にくい事とか相談
に乗ってあげるわ



今日は母さんから
お使いを頼まれて
まき絵さんの家へ

まき絵さんの家に行くのは
結構久しぶりだ

この間母さん達が
旅行に行った時の
おみやげだそうだ

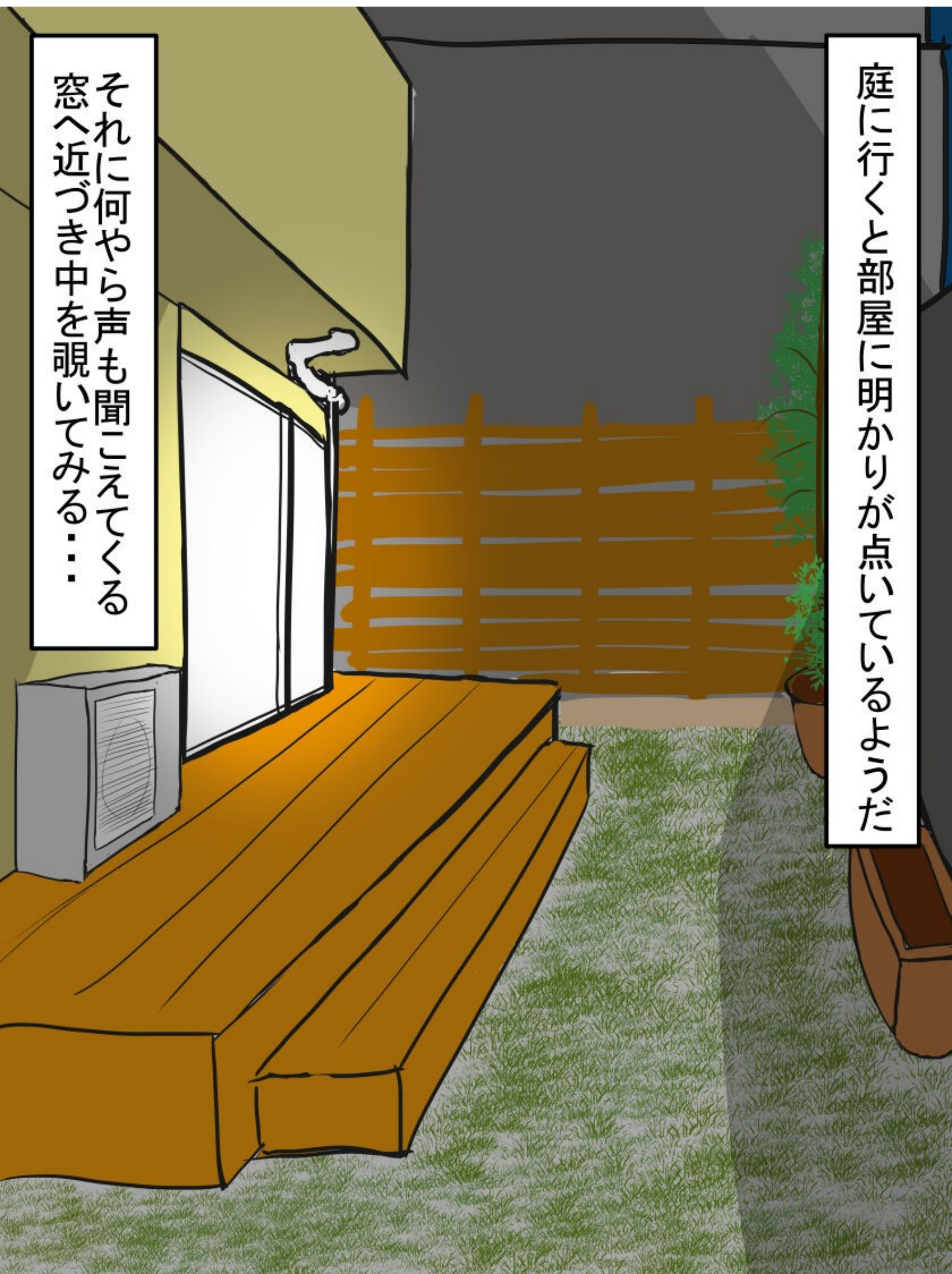


インターホンを
押してみたが
反応がない

俺が行くことは母さんが伝えていたし
昔からの付き合いもあり
庭にまわってみることにした

庭に行くと部屋に明かりが点いているようだ

それに何やら声も聞こえてくる
窓へ近づき中を覗いてみる……



そこには見たことない姿の
まき絵さんがいた……



知らない男の人がまき絵さんのお尻の後ろにいる

ん…

まき絵さんはその男の人によりかかるように下敷きにするように中腰の姿勢でいる



男はなにやらまき絵さんのお尻の下で
モゾモゾしているようだ

ふう…

まき絵さんは一切抵抗などせず
とくに嫌そうな顔もしない

アッ

ムフ

ムフ

ムフ

ムフ

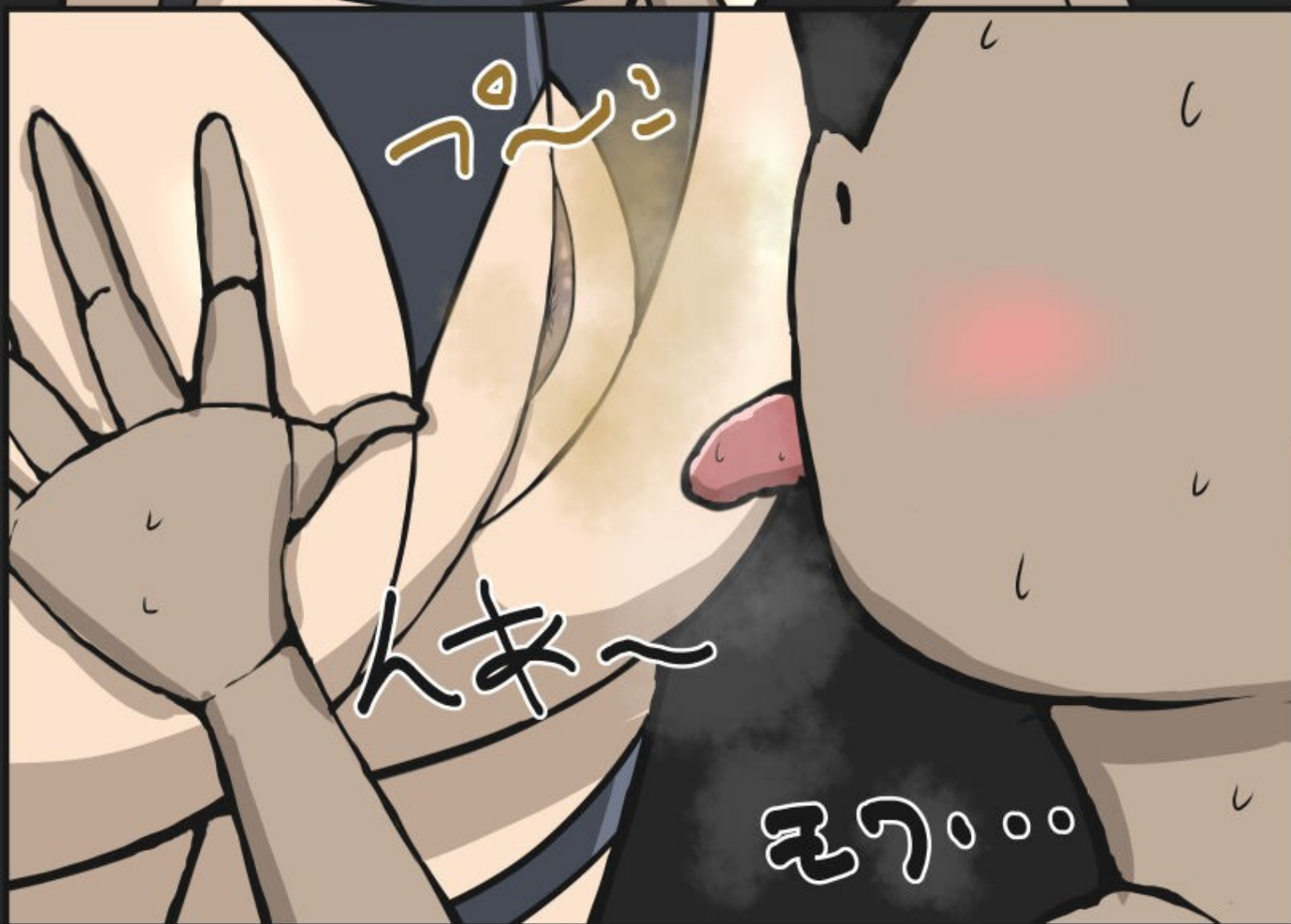
フー
モゾ
モゾ

ズ
ズ

フー
フー

少し位置を変えて見て
さらにシヨックを受けた……

その男の人はまき絵さんのお尻の穴を舐めていた

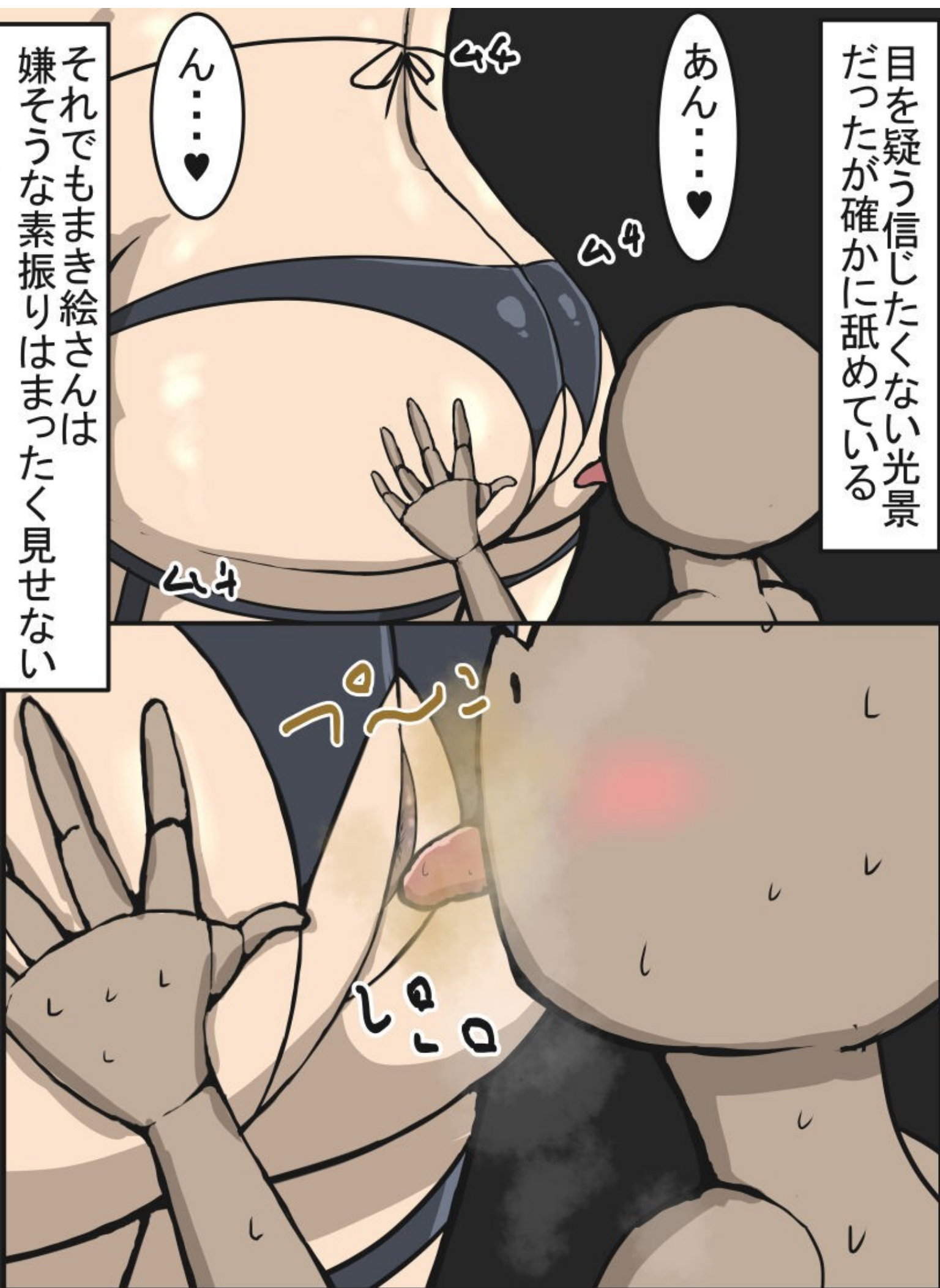


目を疑う信じたくない光景
だったが確かに舐めている

あん……♡

ん……♡

それでもまき絵さんは
嫌そうな素振りにはまったく見せない



俺は怖くなつてすぐその場を離れて家に帰った

その日は何も手に付かず、
グルグルと同じ事ばかり考えていた

まき絵さんが……
まさか……あり得ない……
そんなはずはない……

頭に焼き付いた昼間の光景と
それを否定しようとする自己防衛心で
思考は完全にループしていた



だけど、どんなに考えても
あの状況を説明する答えは
見つからなかった

アレはそういうプレイなのだ



少しなからず憧れていたまき絵さんの
衝撃的な姿にショックを受けると共に
自分の中で背徳的な妄想も芽生え始める

まき絵さんの……お尻の……穴を……



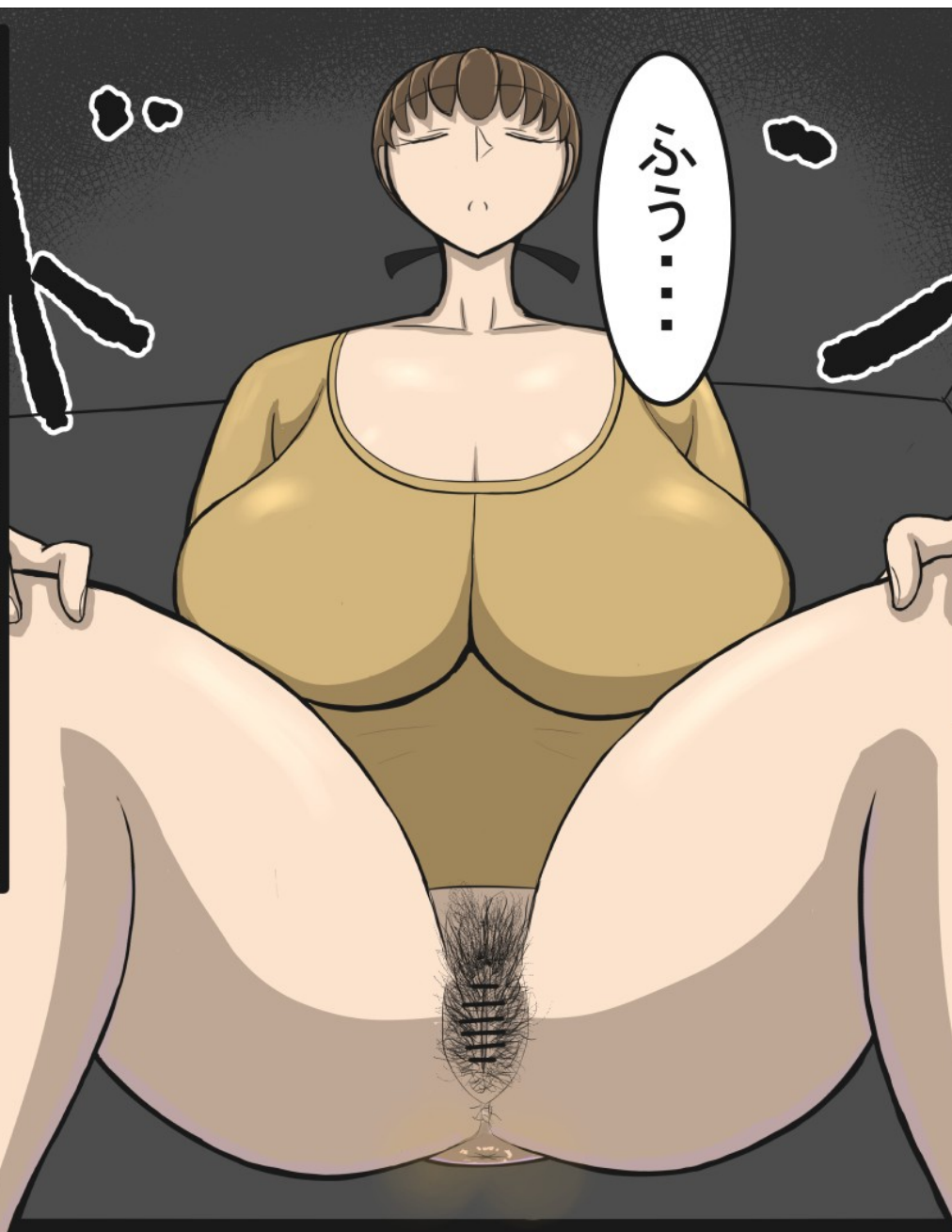
当たり前前のことだけど
お尻の穴は汚い場所だ

ふう……

綺麗で清楚なイメージの
まき絵さんだつてそれは同じ

それなりに汚いし

それなりの匂いが
するだろう



きつとおならだつて...

ん...

くぐ... ぐぐ...

くぐ... ぐぐ...

くぐ... ぐぐ...

くぐ... ぐぐ...

するだらうし…

ふん！

フッ フスー

フッ

フッ フッ



何を考えているんだ！

こんな妄想……

もう寝よう……



翌日、道でバツタリまき絵さんに会った





あら〇〇君

昨日の今日でまき絵さんを見た瞬間に
心臓の鼓動が一気に速くなる

あっ

こっぴんちゅは...

こんにちは



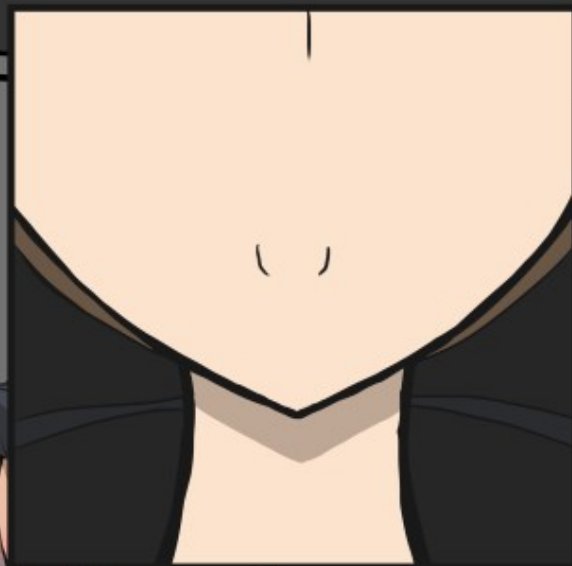
ふふ

最近よく会うわねえ

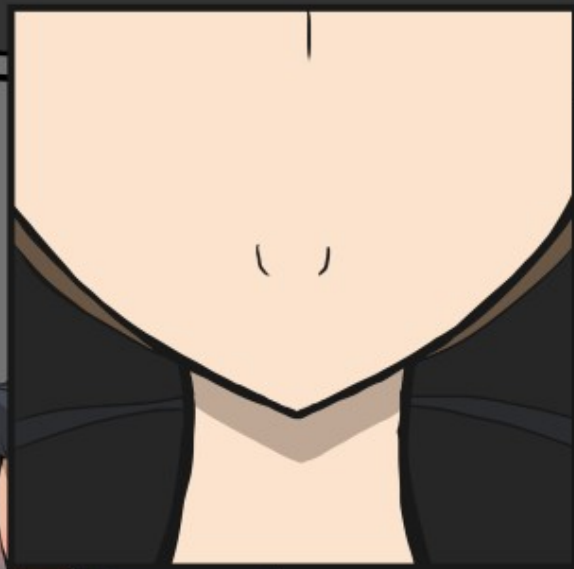
うっ、うっ、うっすね...



ねえ、〇〇君がよかったら
今からうちに遊びにこない？

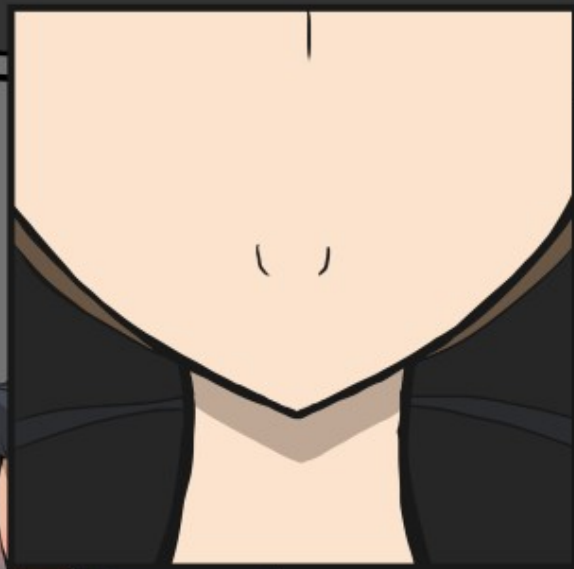


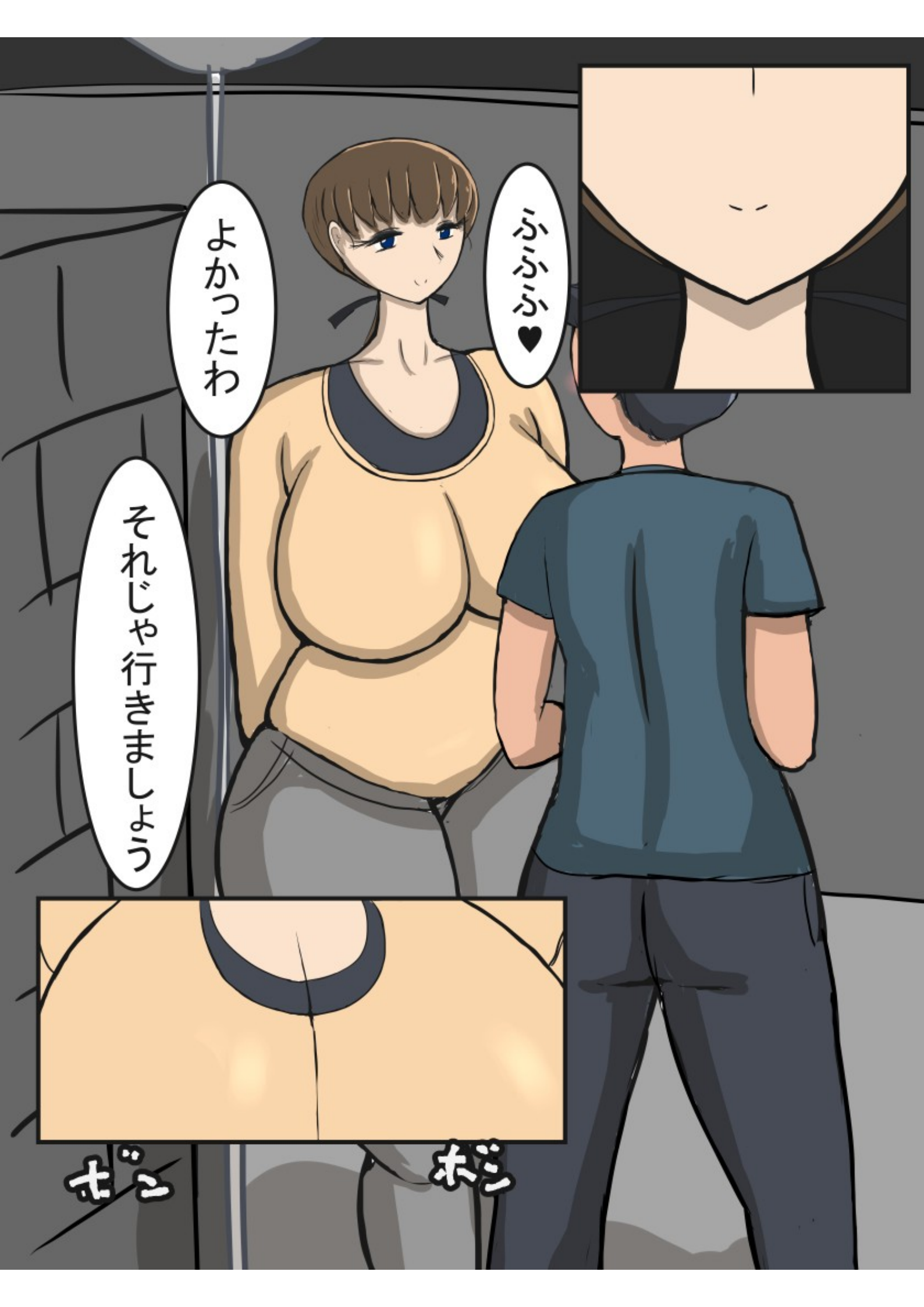
お昼作ってあげるから
おばさんと少しお話しましょう



まき絵さんの言葉に包まれ
高まる興奮のまま了承してしまう

わっ
わかってしまった。。。





よかったわ

ふふふふ♡

それじゃ行きましょう



セッ

ホッ

緊張で喉が渇く

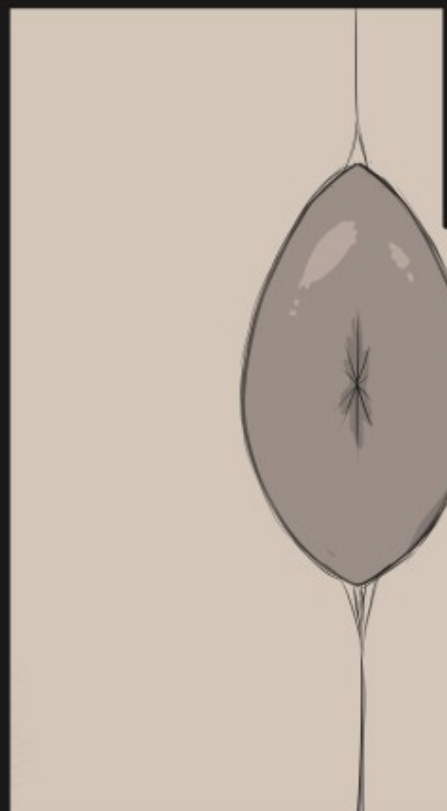
興奮で頭が熱くなる

その奥に…

お尻の…

まき絵さんの…

昨日の出来事や昨夜の自分の妄想が甦ってきて
下半身に血が集まってしまおう



目の前で揺れるまき絵さんのお尻が
それをさらに加速させる……



はい
お待ちどうさま

いっぱい食べてね

つと

若者だものね

あーっ
あーっ
うさいます、
うかがう

遠慮しないで食べてね

うーっ

うー



こうやって話すのも
久しぶりよねえ

大学はどう？

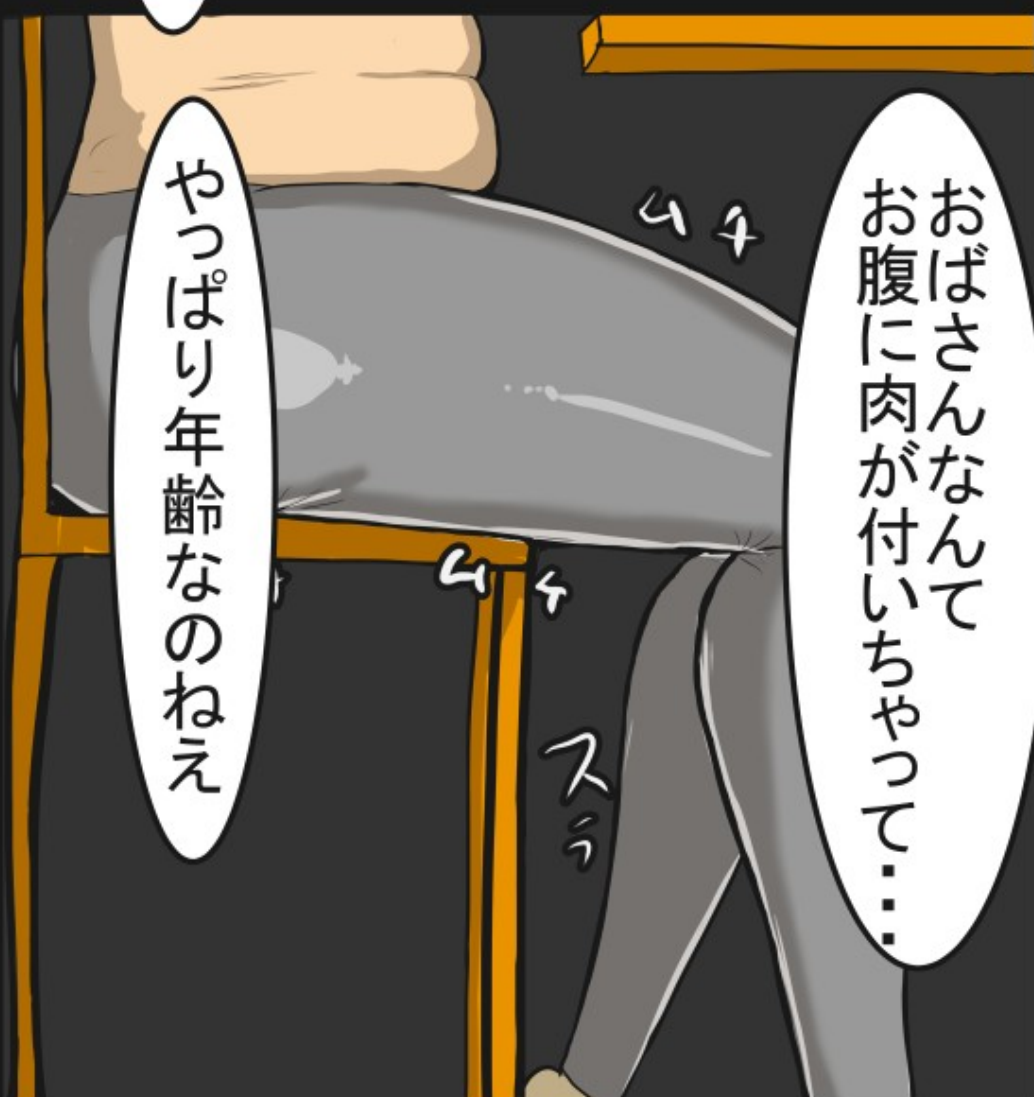
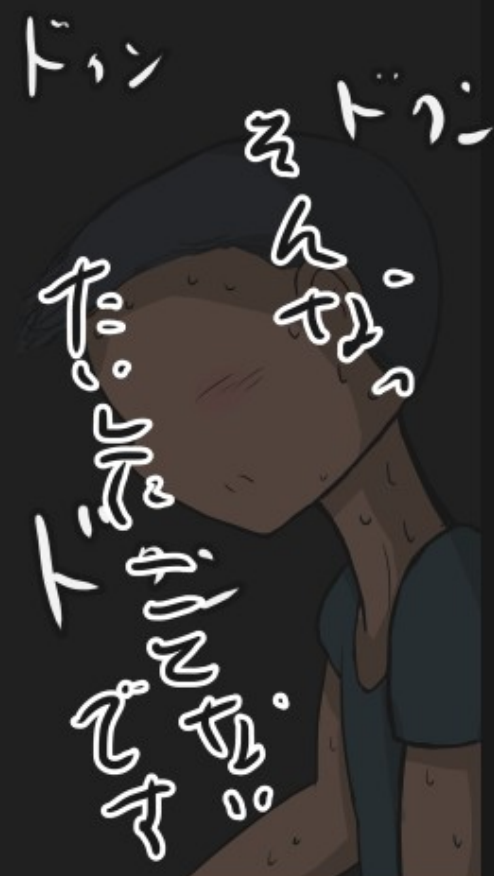


楽しい？

そう、よかった

スリ

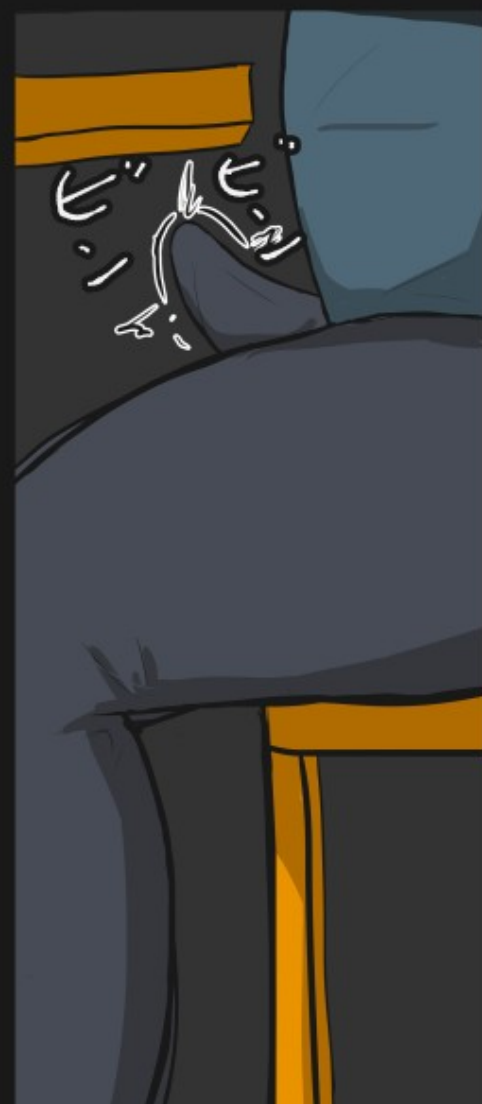
スリ





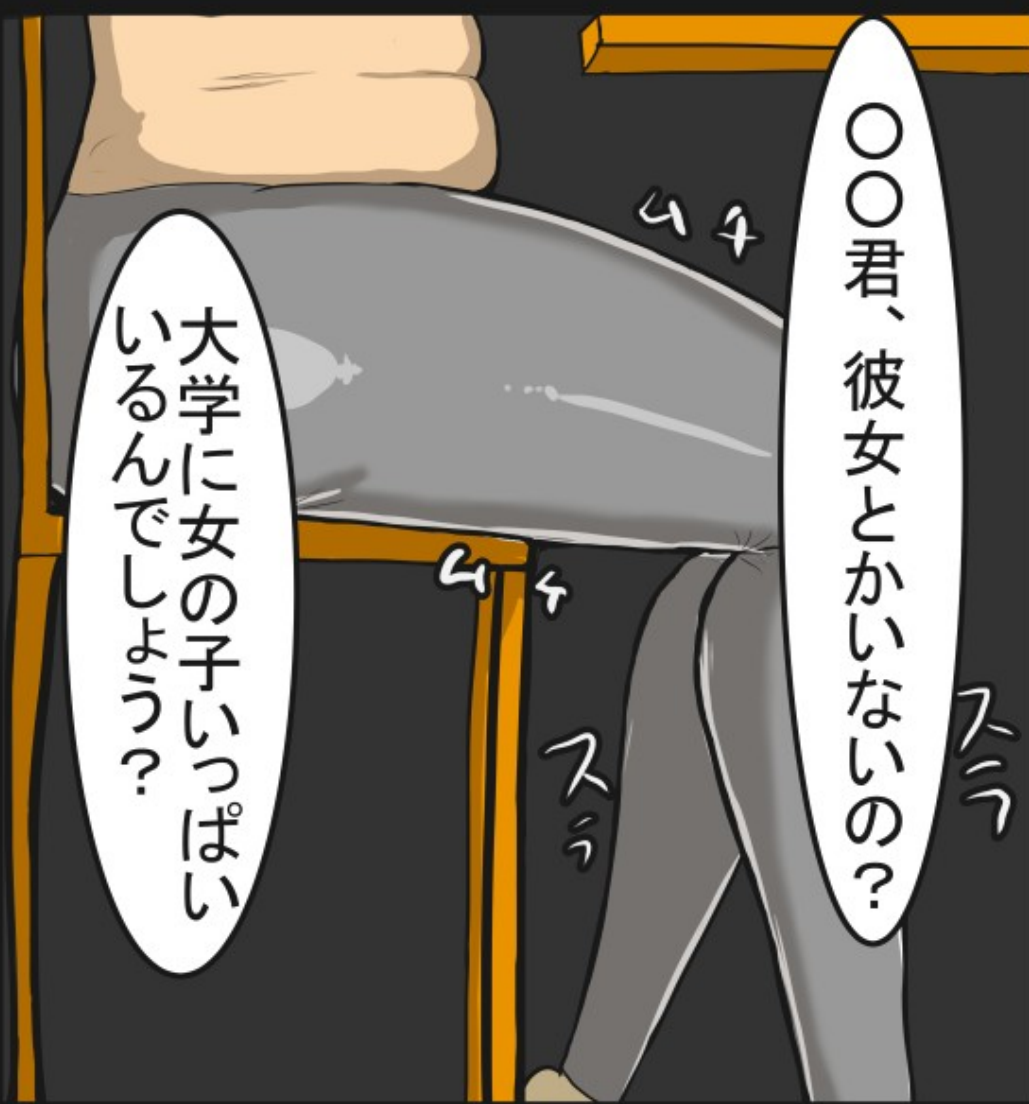
あら本当？

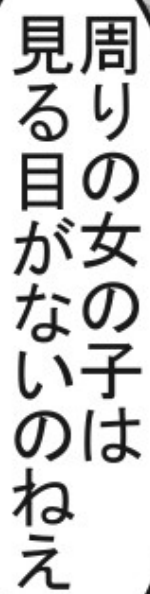
うれしいわ



〇〇君、彼女とかいないの？

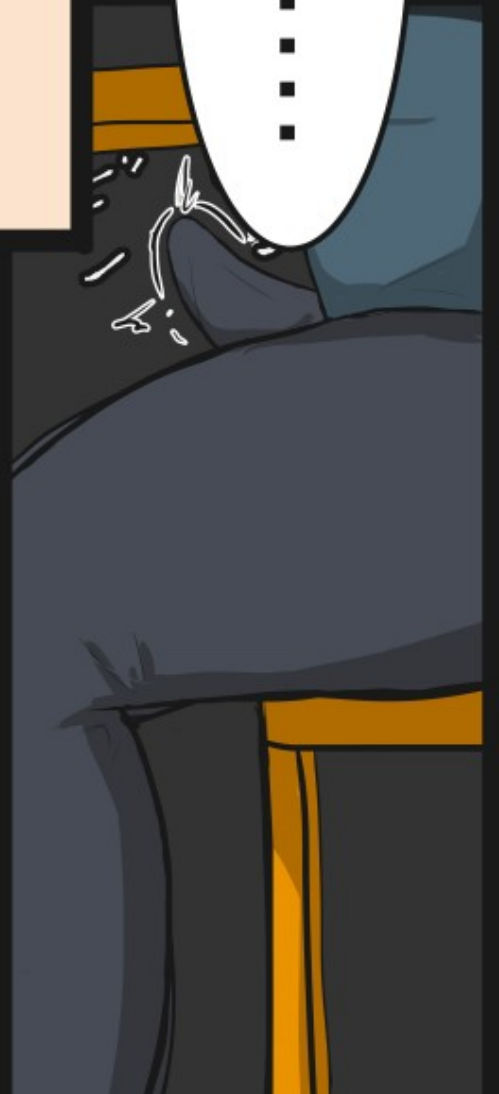
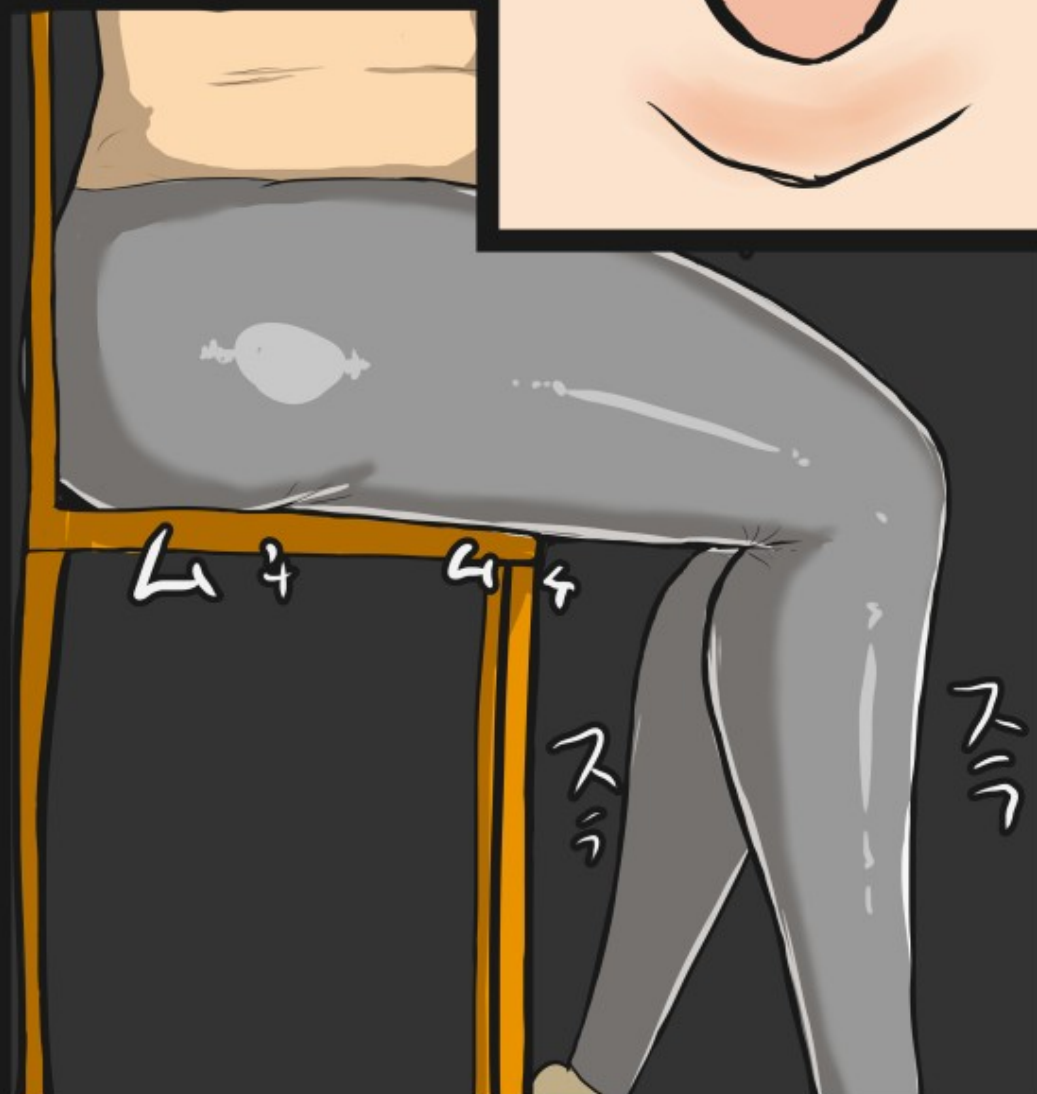
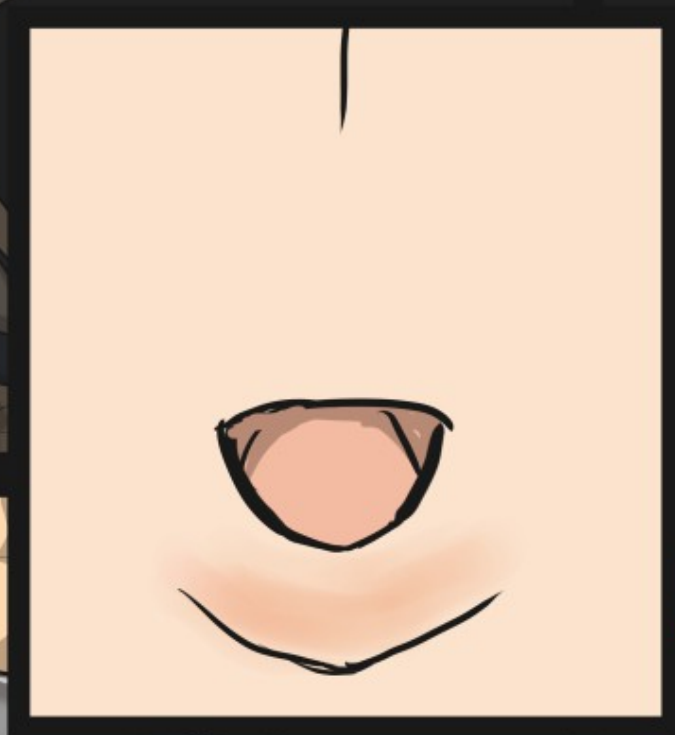
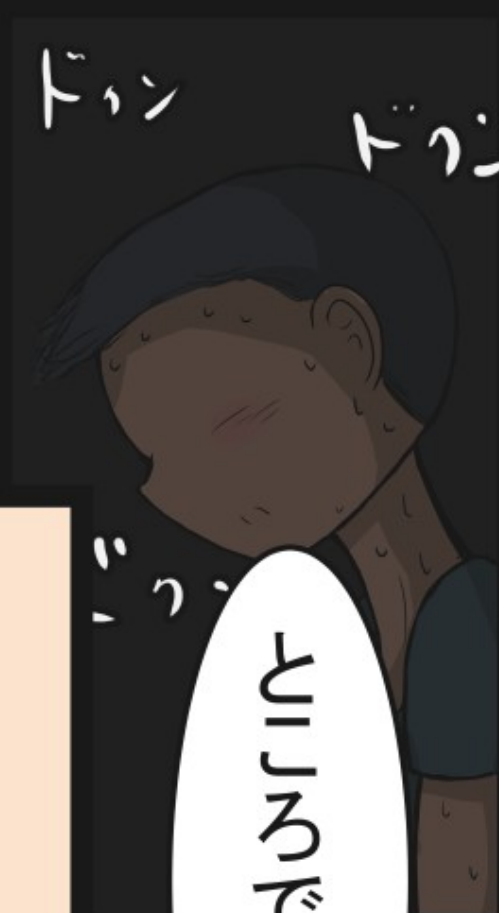
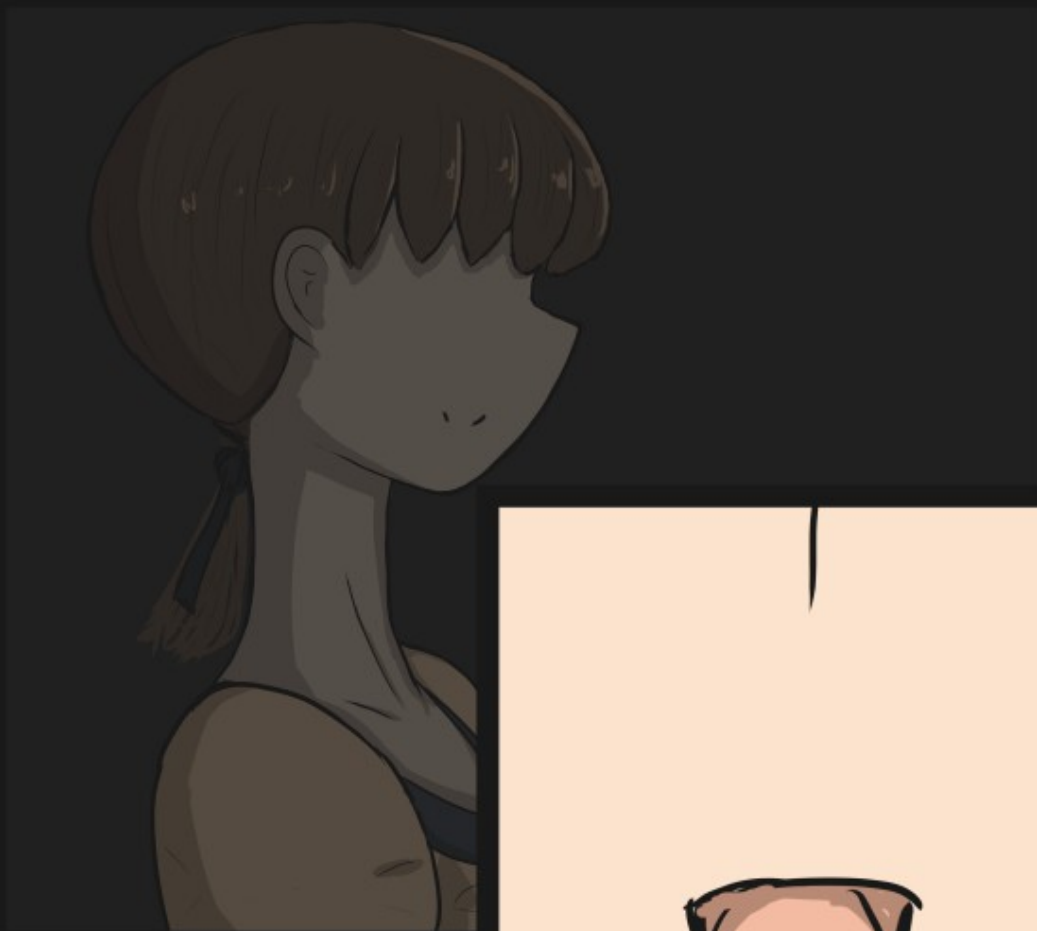
大学に女の子いっぱい
いるんでしょ？





スラ

ス



ドン

ドン

チンポ♡

ム 4

ム 4

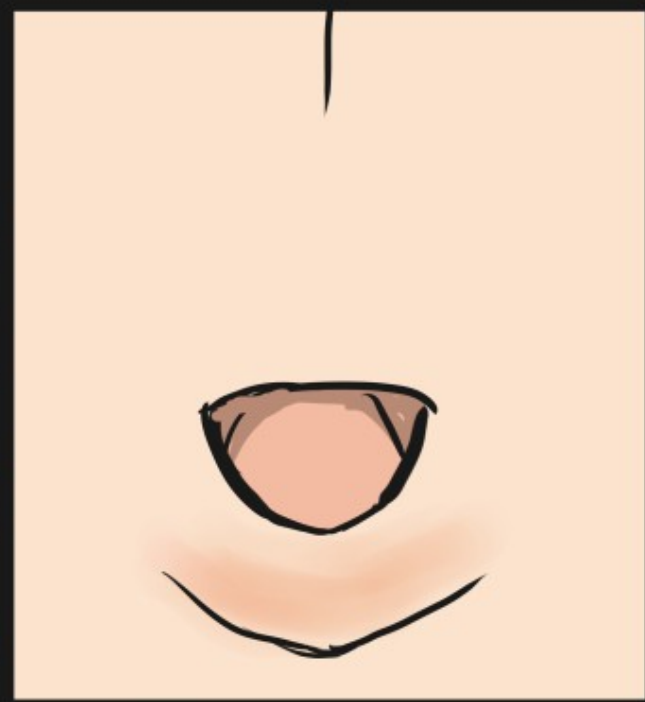
スリ

スリ

ドン

ドン

勃起してるんじゃない？



ム 4

ム 4

スリ

スリ

私の部屋にいらっしやい♡

いいーとおしえてあげるわ♡

部屋に入ると、まき絵さんはドアを閉めた

そしてすぐに俺の方に振り返る

お尻・・・好きなのね

ずっと見てる・・・

そこに仰向けになりなさい

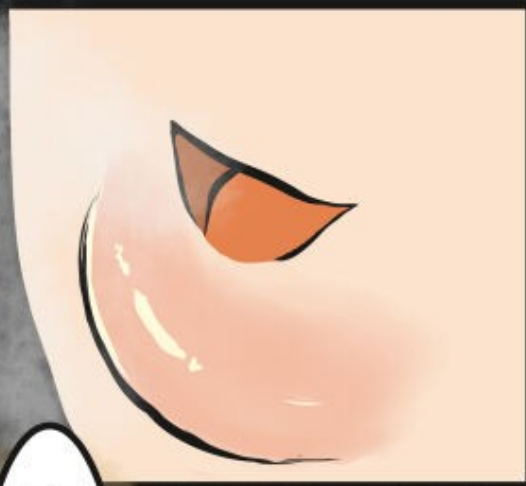
座ってあげる♡

ムキィ

ムキィ

ムキィ

ムキィ



アププ

ムニィ

ムニィ

まき絵さんのお尻……

おつきい……

ん……

迫ってくる……

デカ尻……

潰される……









こんなに勃起させちゃって♡

おちんちん♡

ふふ...♡



鼻の先…

顔に座られてチンポコ
ピクピクさせちやつこ

このピッタリしたパンツの
向こうにまき絵さんの
お尻の穴が…

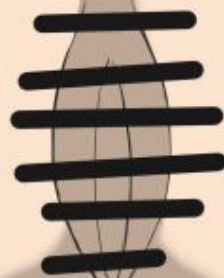
お尻に潰され
好きなのね♡

昨日見たまき絵さんの
お尻の穴…

それが薄い布を隔てて
鼻に密着してる…

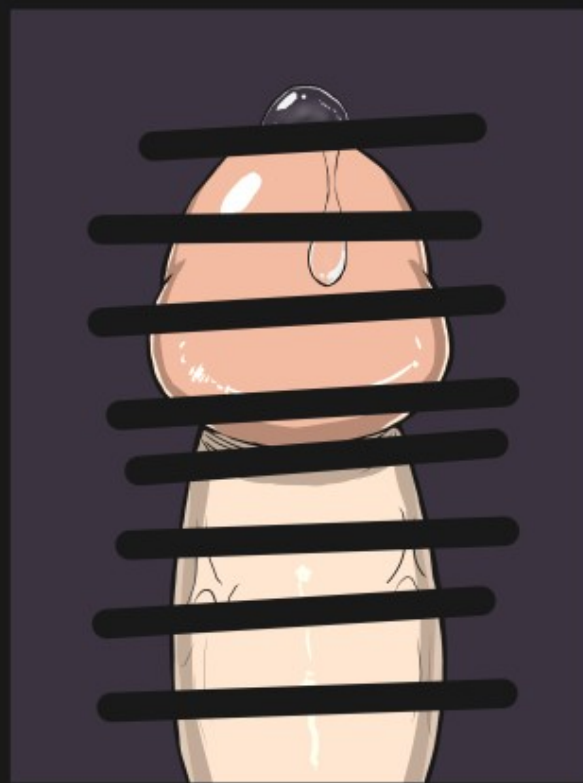


ムヲ ムヲ





あら？



それじゃあ...

ふっ...



我慢汁漏らして

昨日見た私のお尻の穴でも
思い出したのかしら？



おなら…

まき絵さんのおなら……

まき絵さんのおなら！

まき絵さんのおなら!

An anime-style illustration of three young women in a dark, moody environment. The woman on the left is looking towards the center with a slight smile. The woman in the middle is looking down with a gentle expression. The woman on the right is looking towards the center. They are all wearing similar dark, long-sleeved tops. The lighting is soft, highlighting their faces and clothing against the dark background.

あのまき絵さんの…

あのまき絵さんの…

あのまき絵さんの…

あのまき絵さんの…

あのまき絵さんの…

まき

の…





まき絵さんの凄まじいおならの匂に
俺は射精してしまう

今までにない性的興奮
鼻を突き抜ける強烈な匂いに
勢いよく濃い精液が飛んでいく

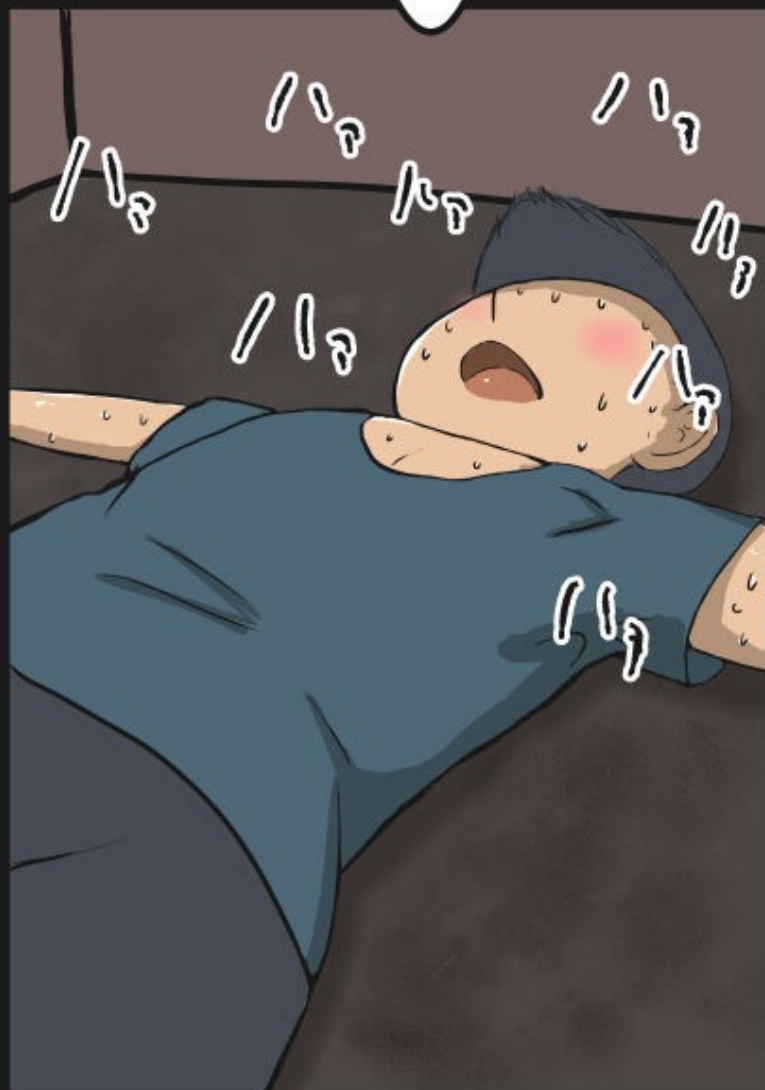


あらあら……射精？

触ってないのに出ちゃったの？

フフッ♡

私のオナラだけで精液
出てきちゃったのねえ……



立てる？



おばさんのおなら
そんなによかったかしら



お漏らしした
精液は拭いておいてね

あつそれと
ラオン教えてくれる？



〇〇君と連絡
とれるようにしておきたいの

はい、ありがとう♡

じゃあ連絡
するから



まき絵さんと連絡先を
交換して家を後にする

その日からしばらく
頭の中はまき絵さんの
おならの匂いでいっぱいだった……



今ちようど
体操してたところなのよ

きたわね

もうおちんちん
こんなにして...

あら...

いっ
っ

ボディ
ー

期待してたのね?

ム?



体...
綺麗にしてくれる?

ちようどよかったわ



まずは
おっぱいからね

はい

それじゃあ



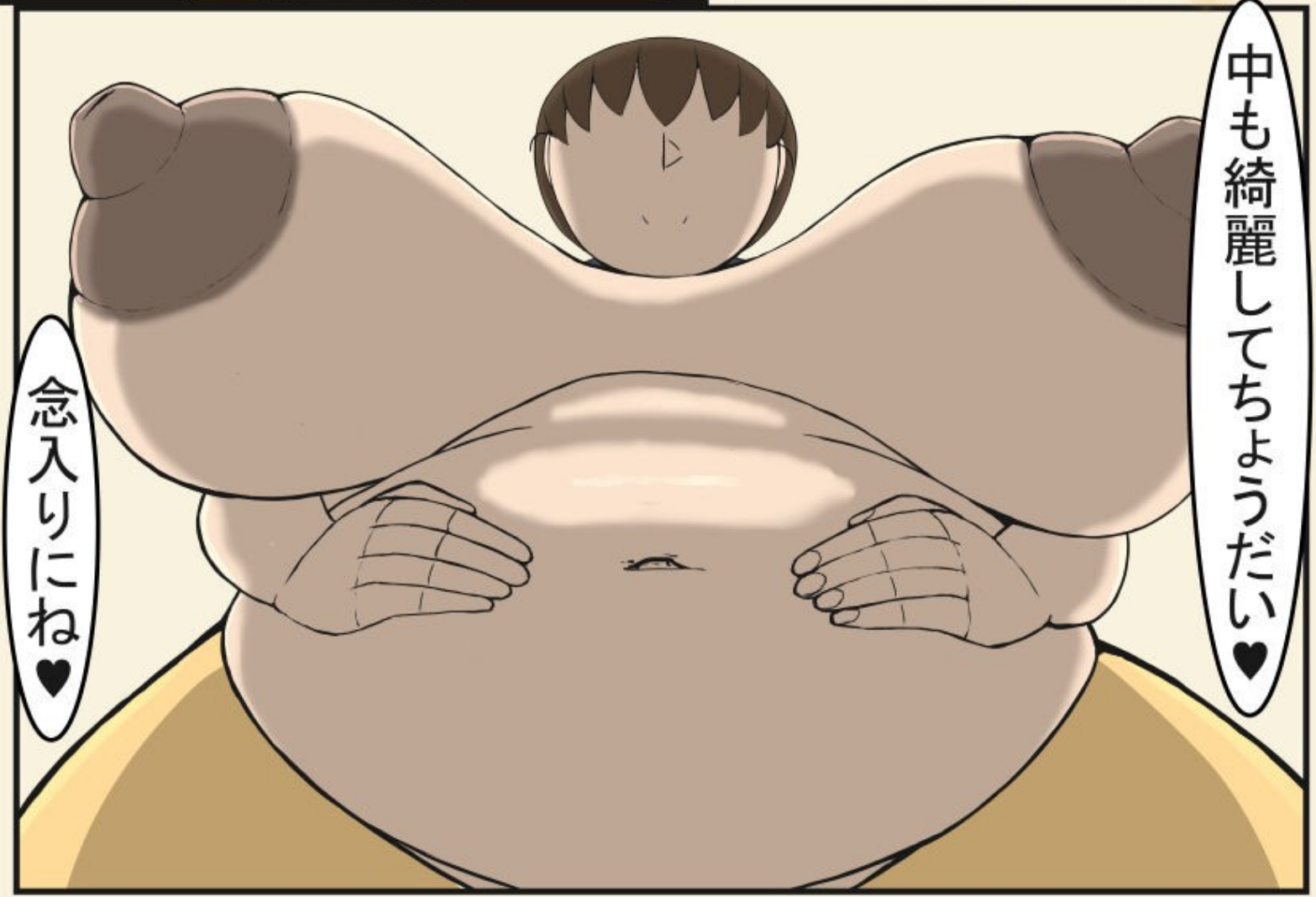
上手よ♡

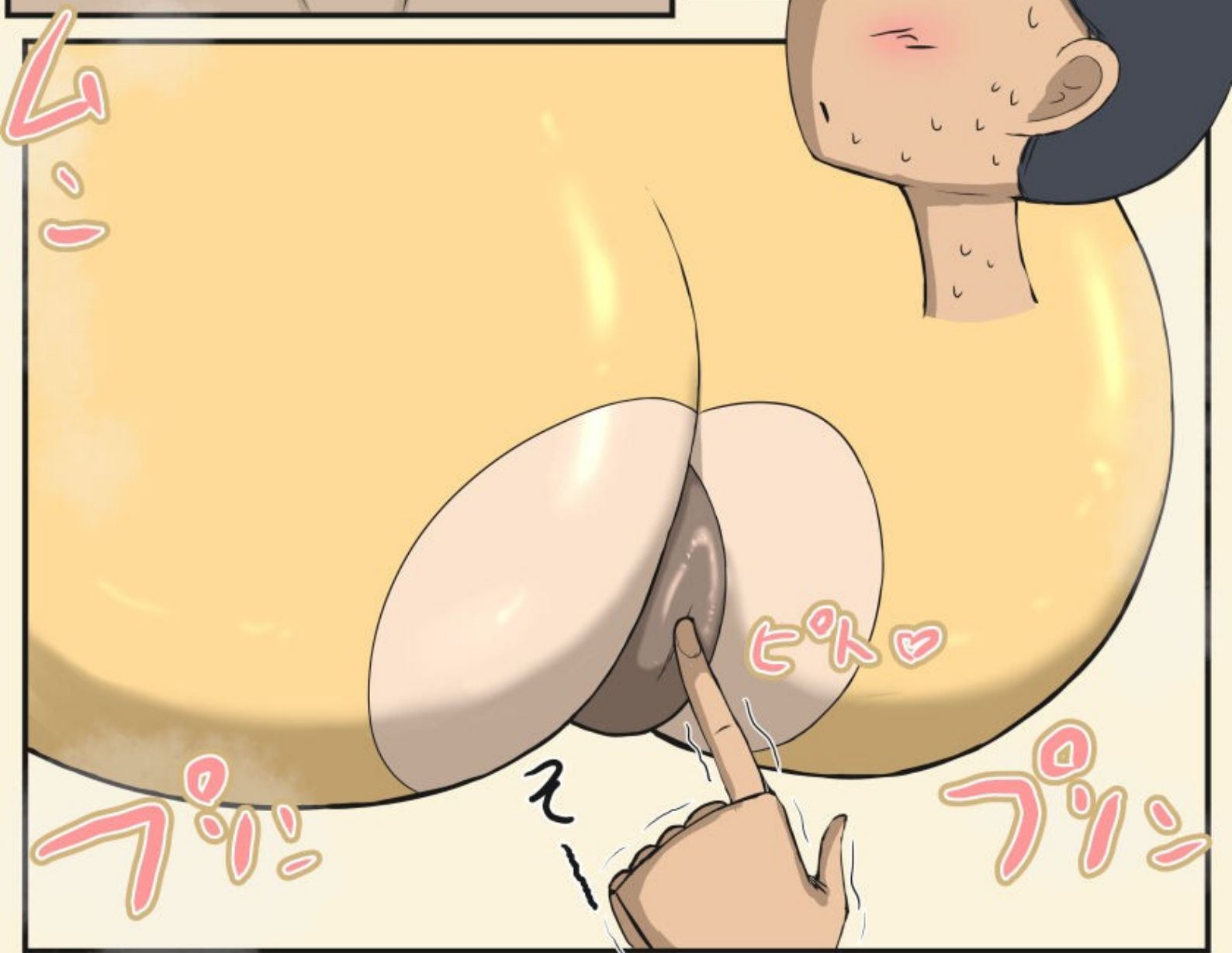
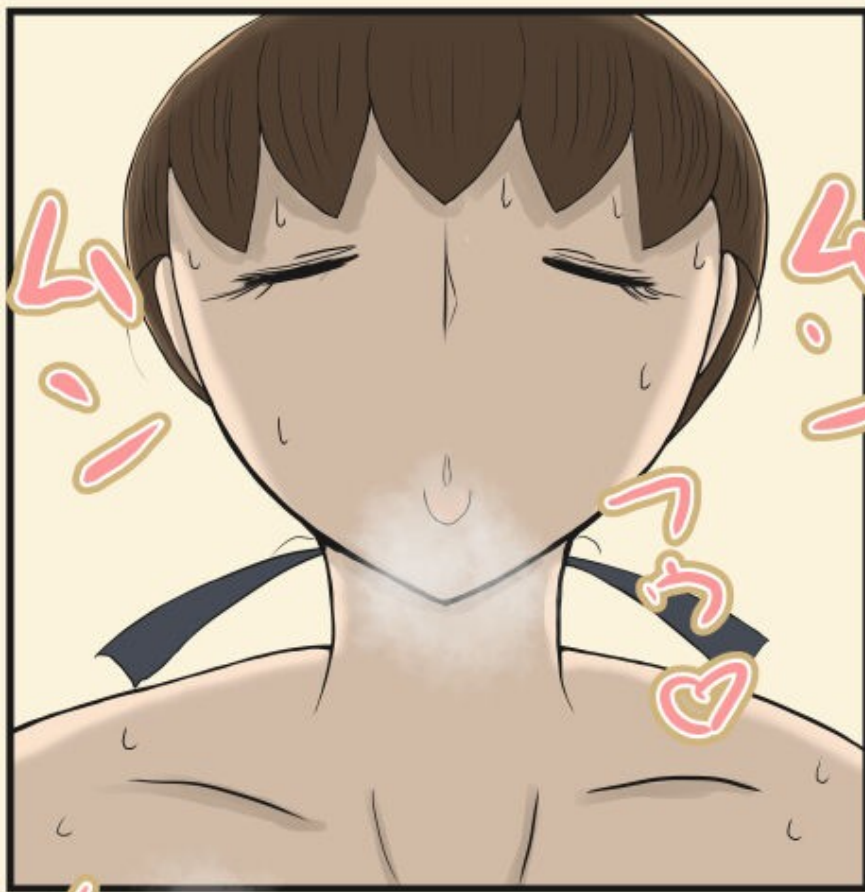
そう♡

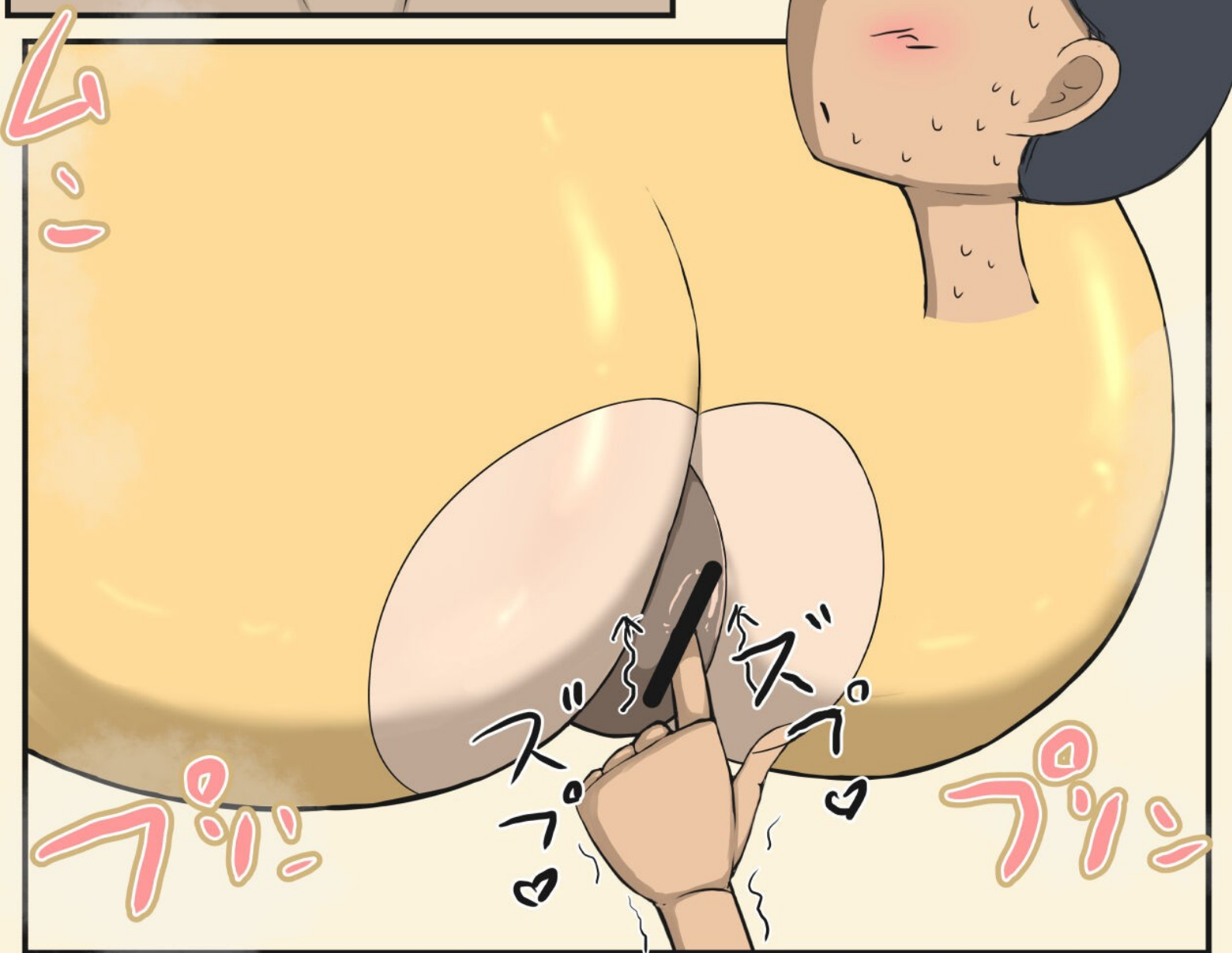
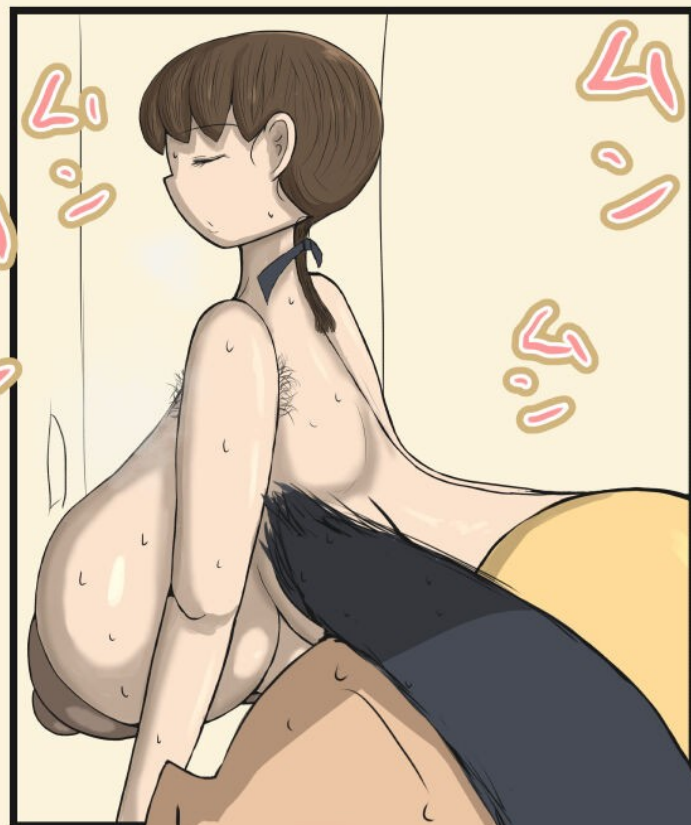
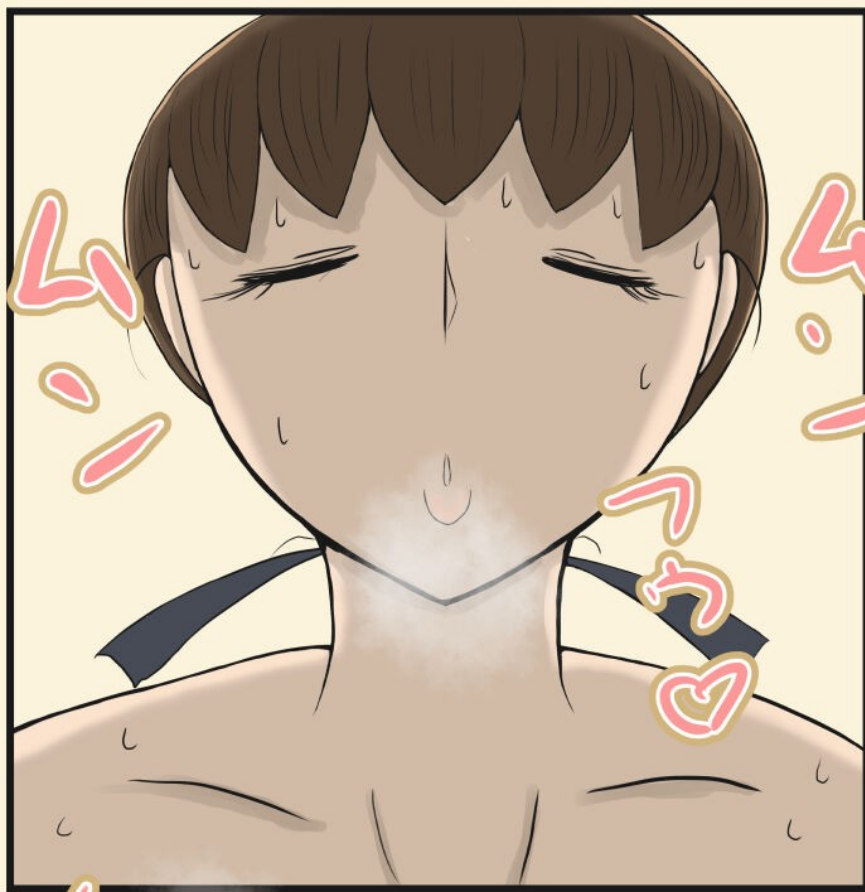
腋毛もしっかり
しやぶりなさいね♡

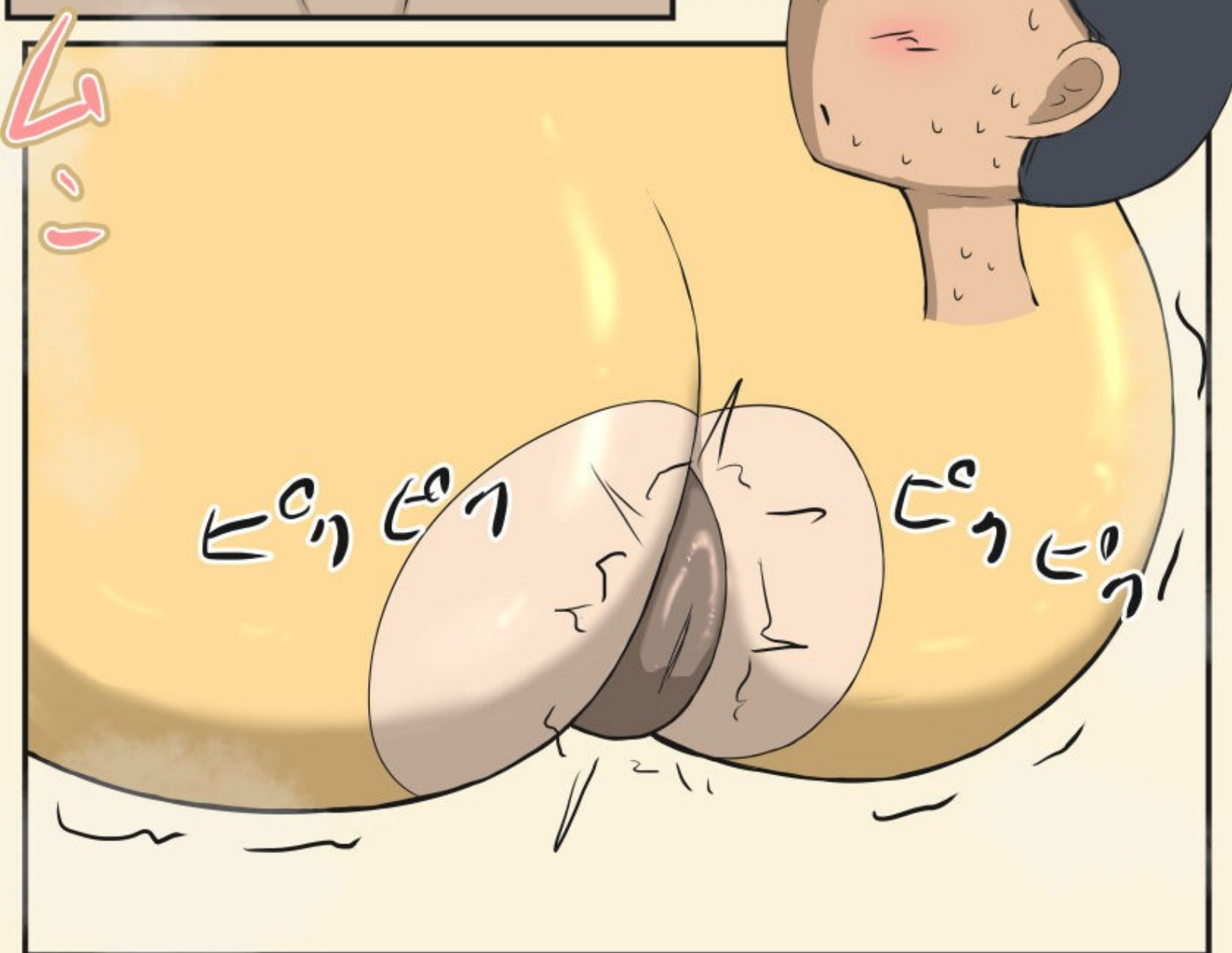
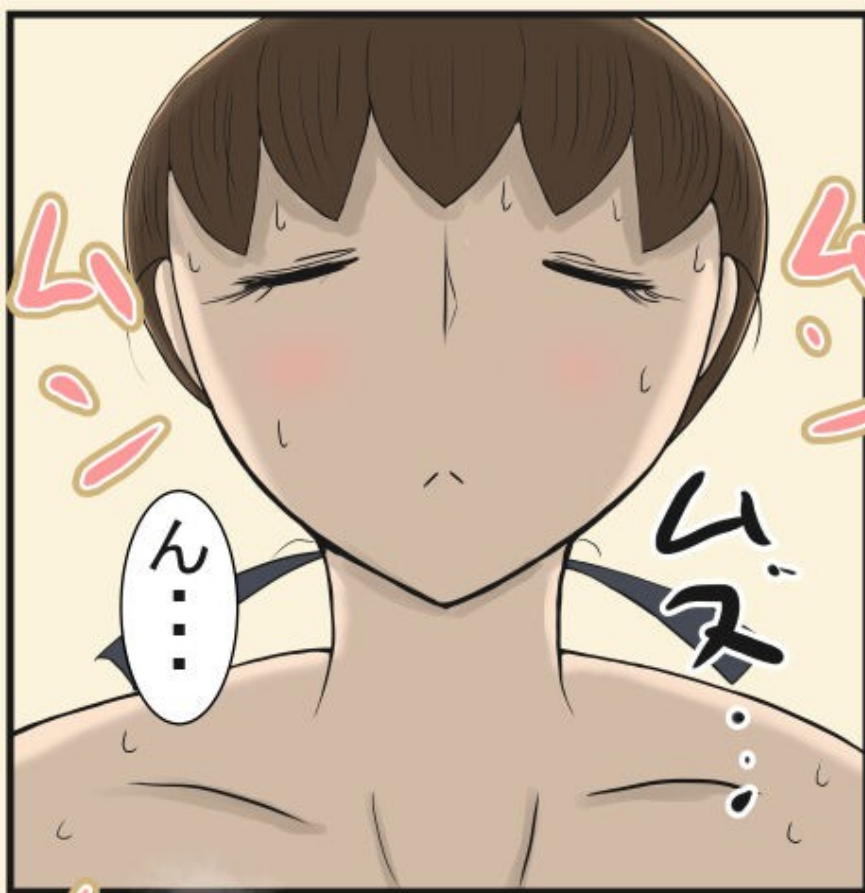


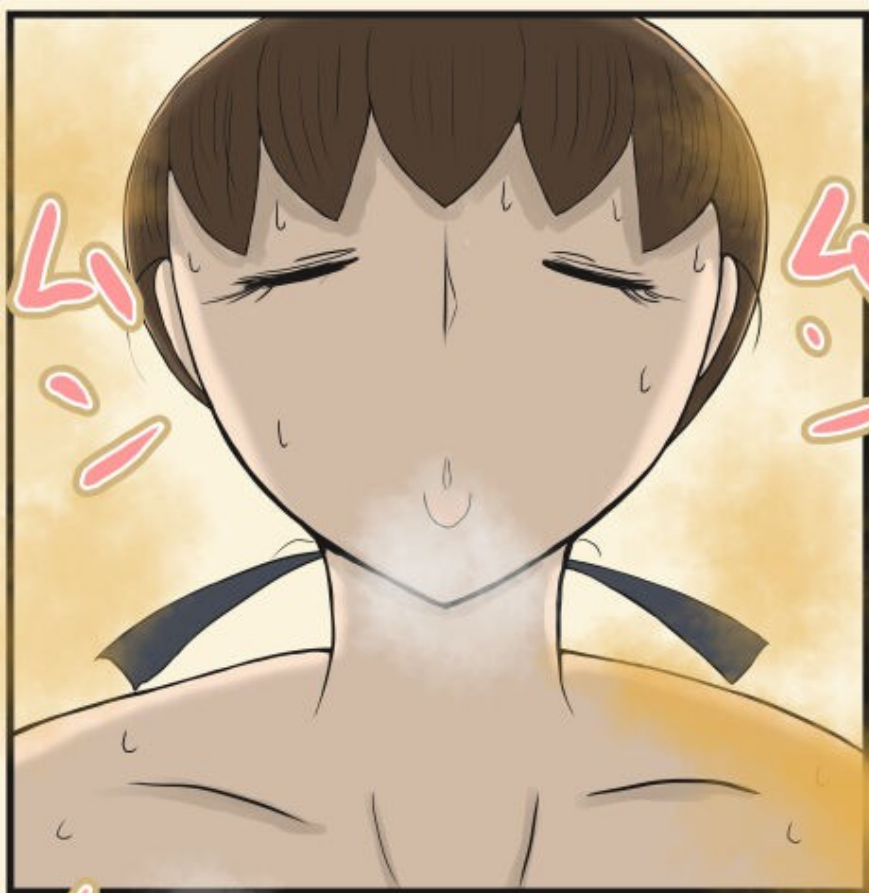
ヌチャ



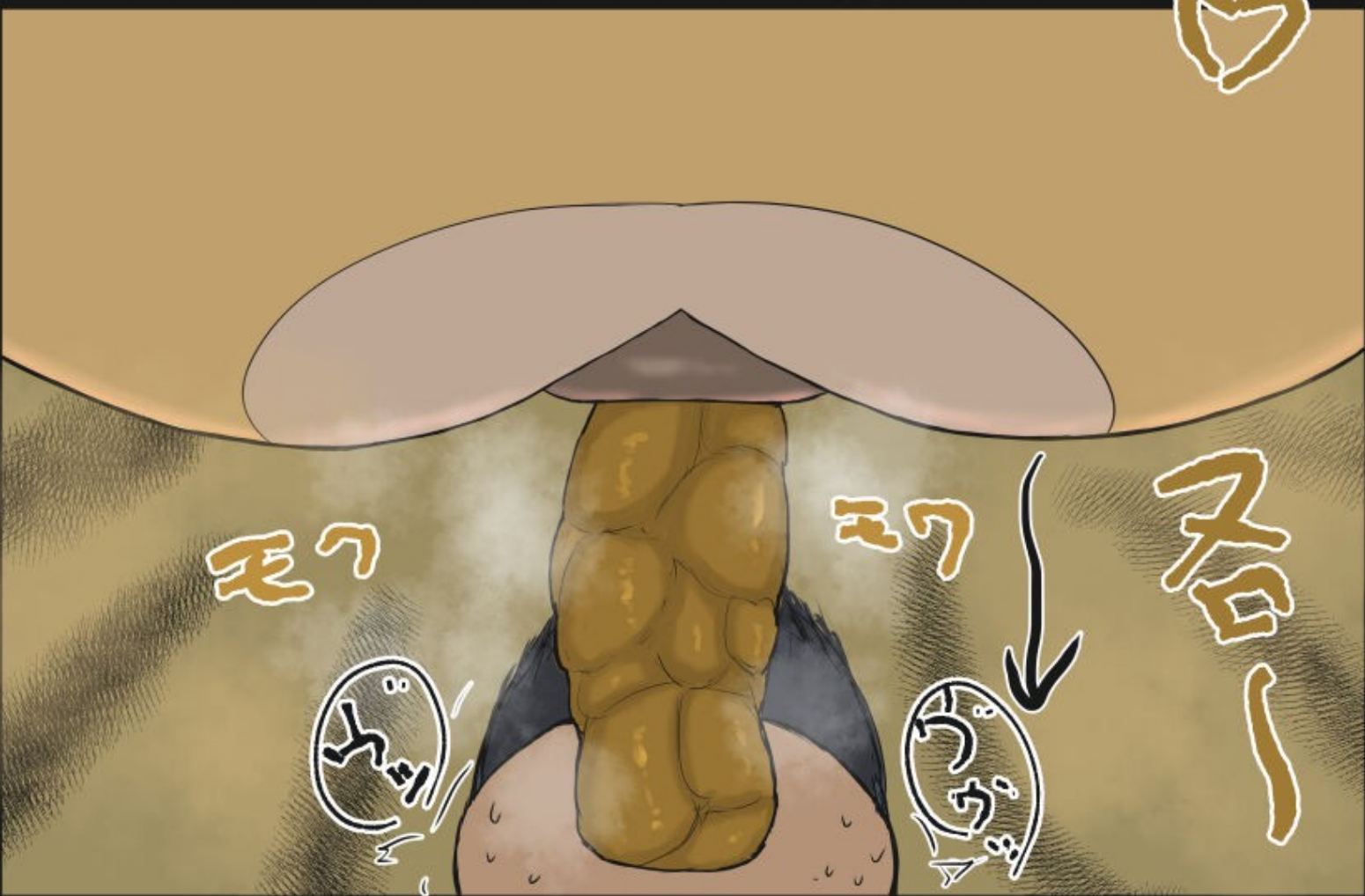
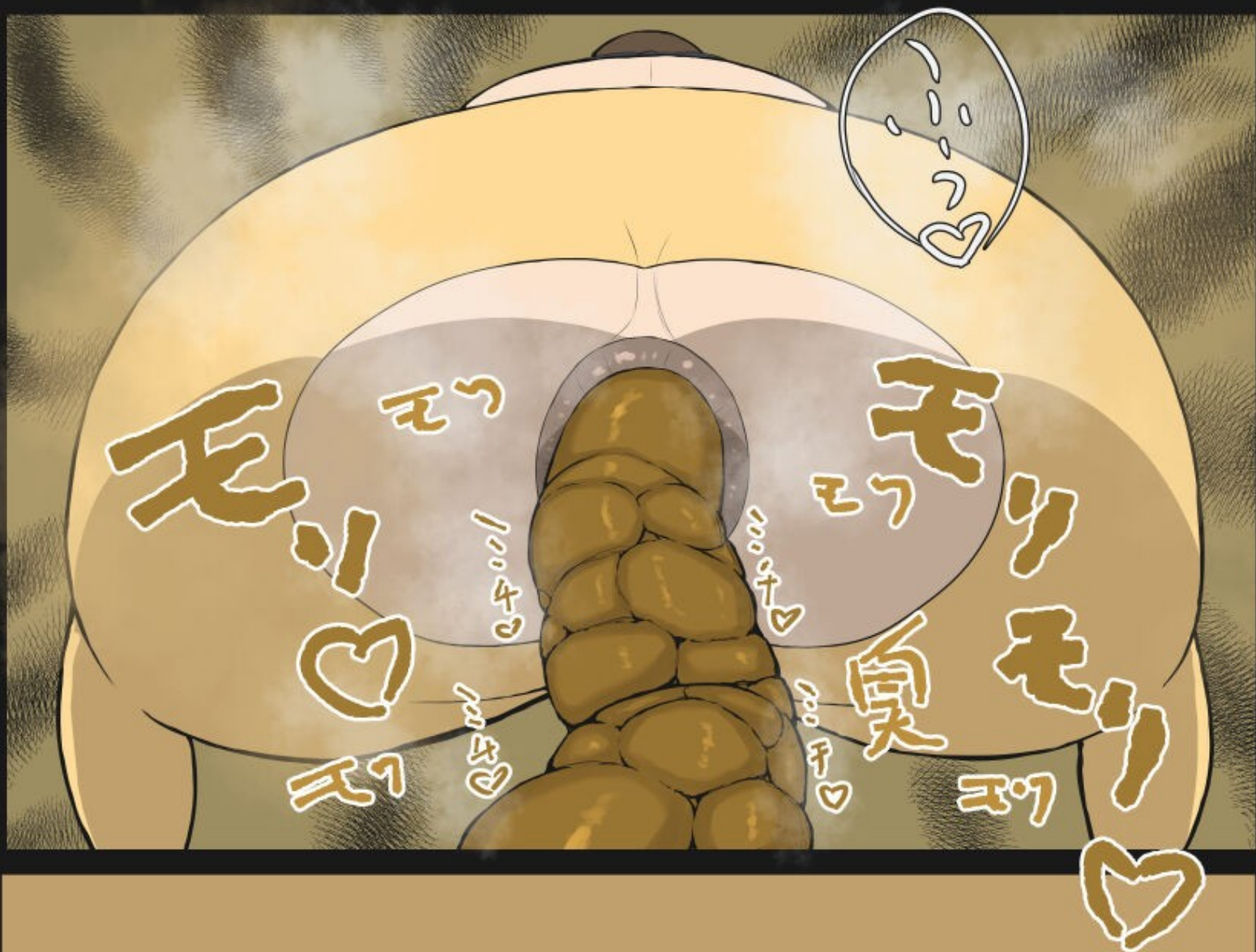


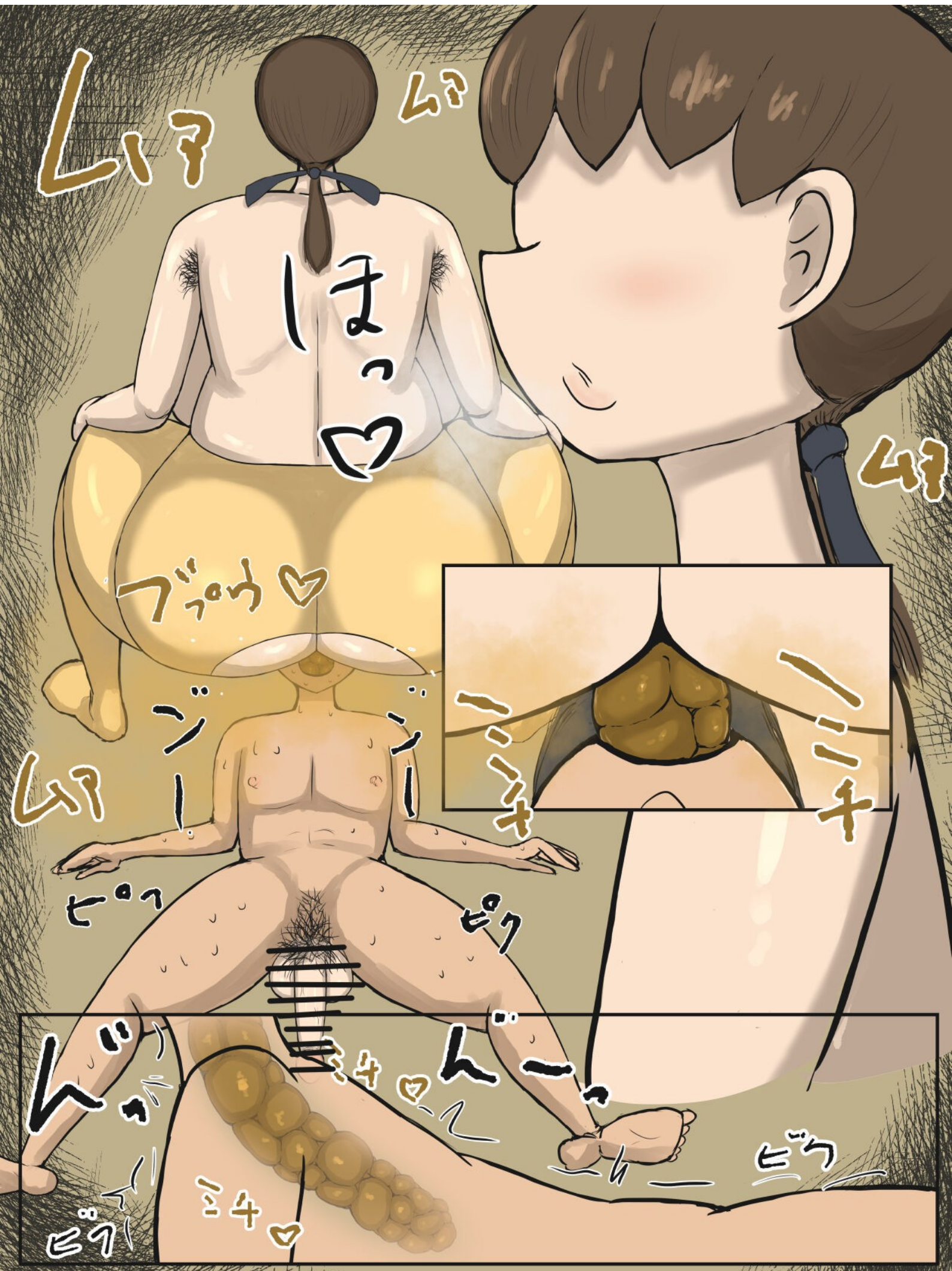














ただいま
いい子にしてたかしら？



あらあら私のベッドをこんなに汗びっしょりにしちゃって……



お腹空いてるでしょう？
3日も何も食べてないものねえ



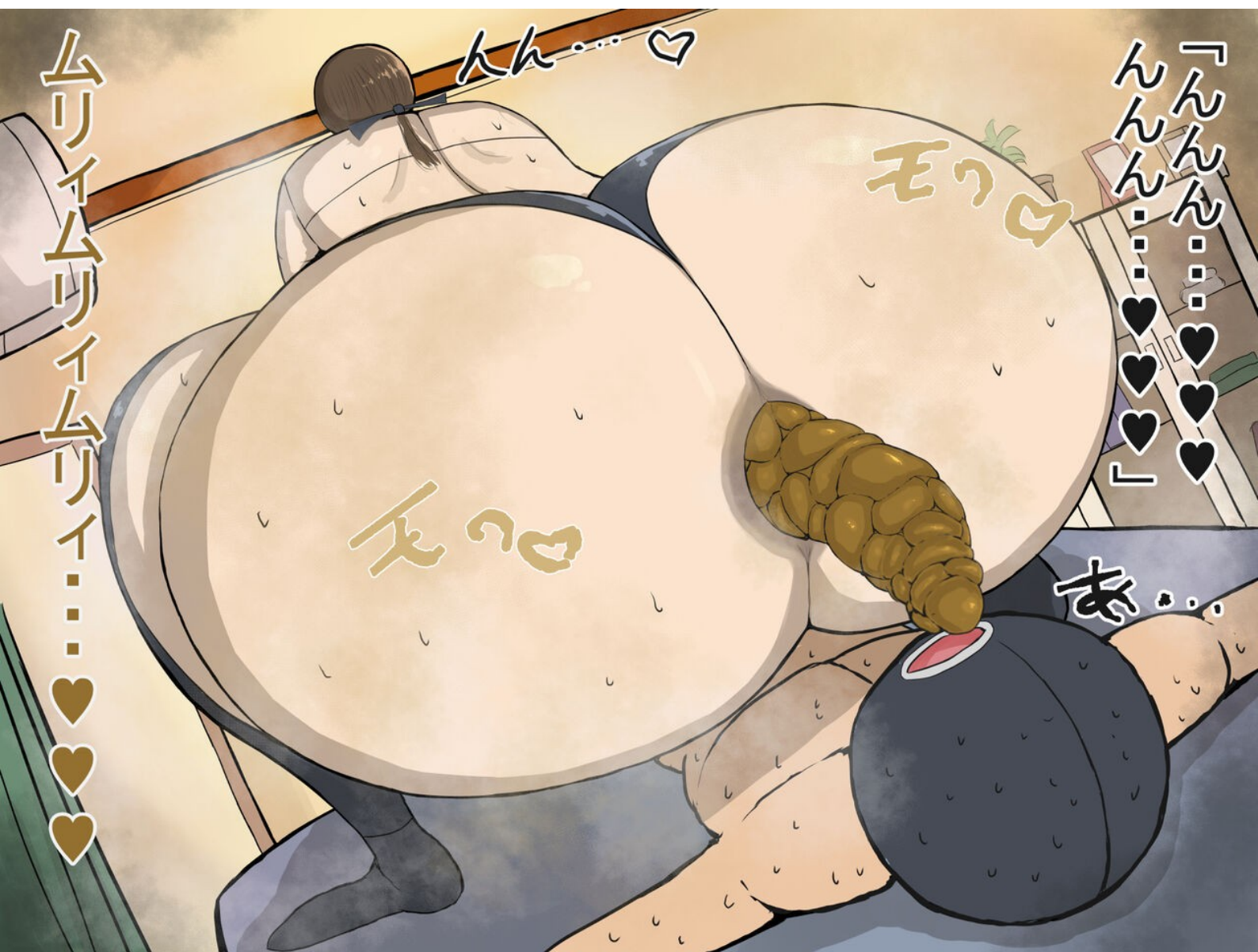
私もたっぷり溜まっているから
いっぱい食べさせてあげるわね♡

「ちゃんと口を開けていなさいね
せつかくあなたの為に作った
ごはんなんだから♡」

「私もいっぱい食べたから
お腹がもうパンパンよ♡」







ムリイムリイムリイ...♡♡♡

んん...♡

モっ♡

んっ♡

「んんん...♡♡♡」
んんん...

あ...



「ん：：♡
ちよつと外したかしら？」

「はみ出ちゃったわね♡♡
「ふふ♡♡」

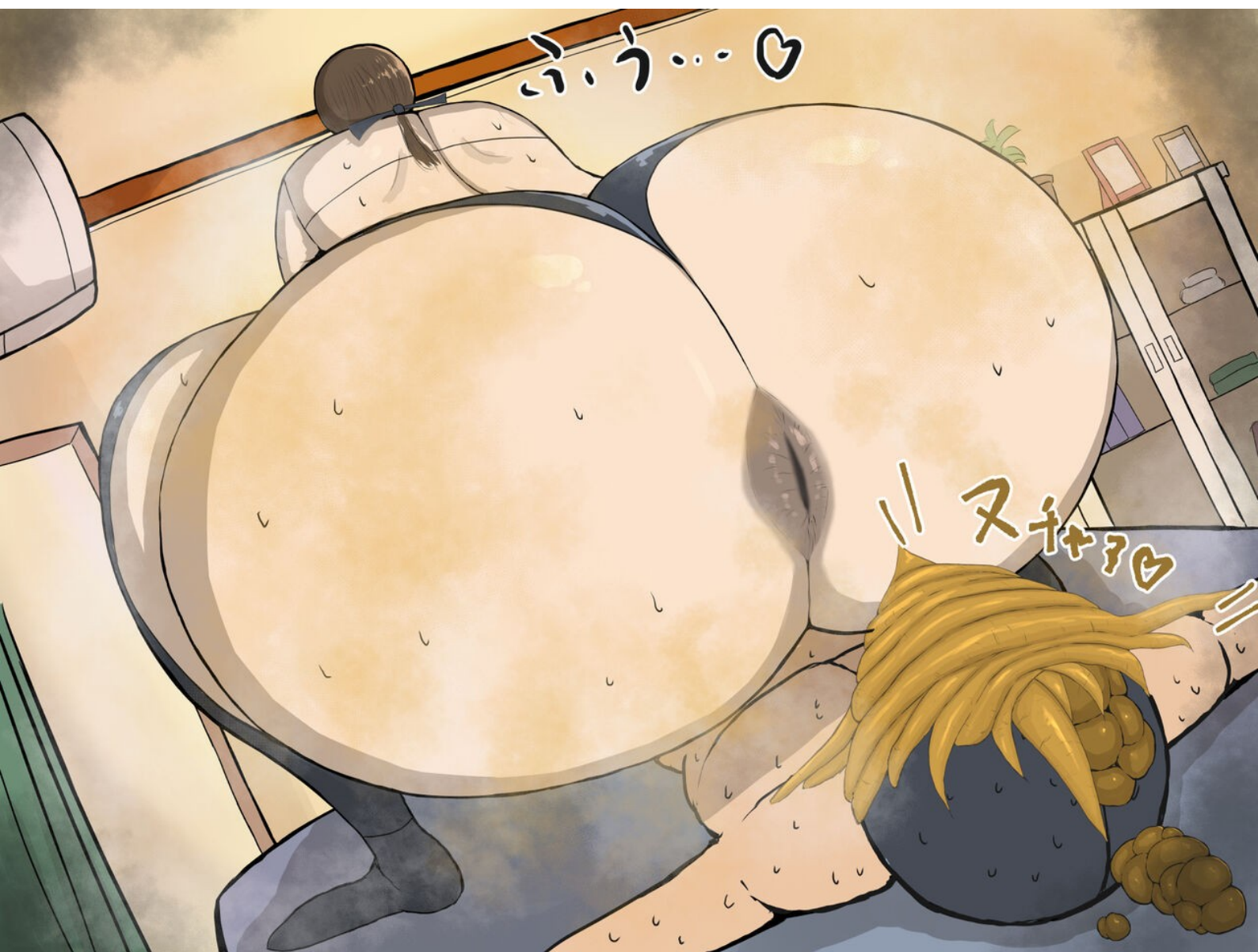




「まだ出そうね……」

「……」







「そんなに私のウンコが美味しいのかしら？」



「はん中におちんちん起たせて…」





「あら...:「出ちやいそうなの?」

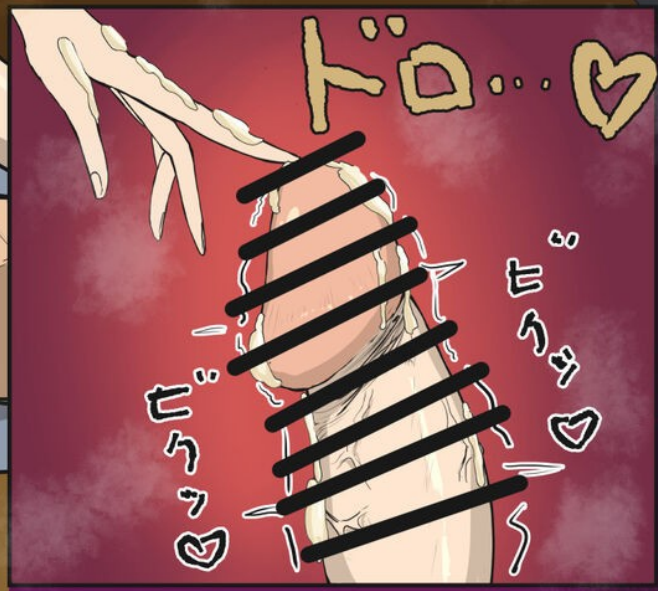
おっ、おっ、おっ...

ンゾ!!

ッッッ!!

フュッ♡











「ふふふふ……」

「ちゃんとオナニー我慢して、金玉に臭い精液溜めてきたかしら？」

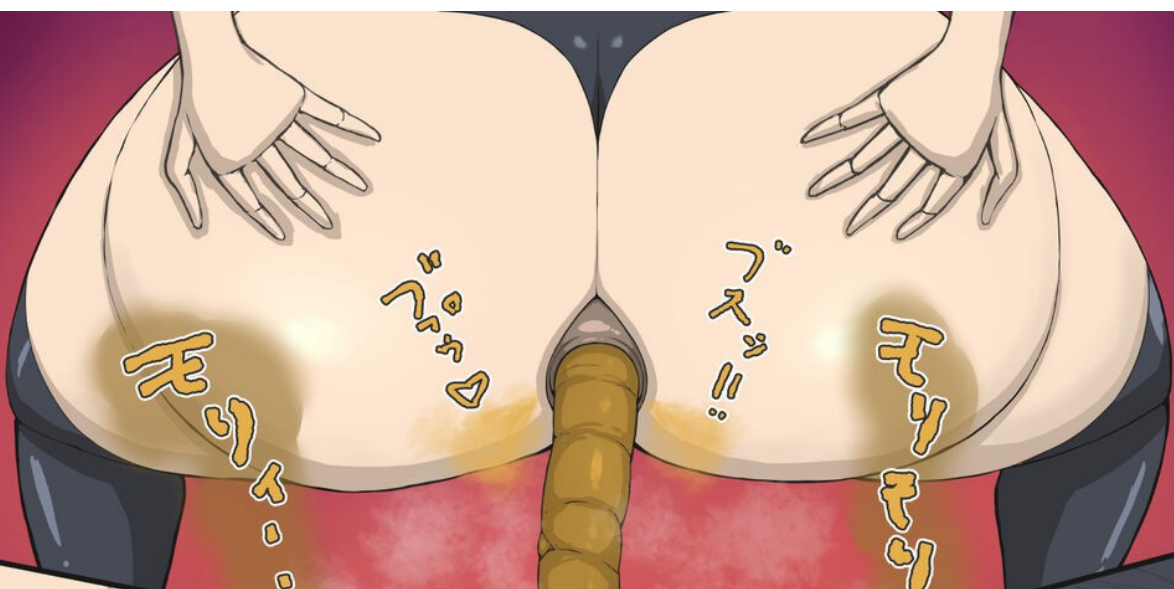


「そう…
じゃあそ」に正座して待ってなさい…」

「今」主人様が、マゾ犬のお前のために
オカズを出してあげるから…♥」



「んん…♡」



「んん…♡…んん…♡」



「温かいうちに『グン』しなさい…」



「ほら…せつかく出してあげたオカズなんだから…」



「パーン♡」

「モ♡モ♡」

「匂いだけじゃないでしょ？」

ムニャ...

モワ

モワ

モワ...

はい...
はい~ん

モワ...

ビョ

ビョ

たぐ

スニ

「ちゃんと今日のご主人様の味を確かめるの」

